

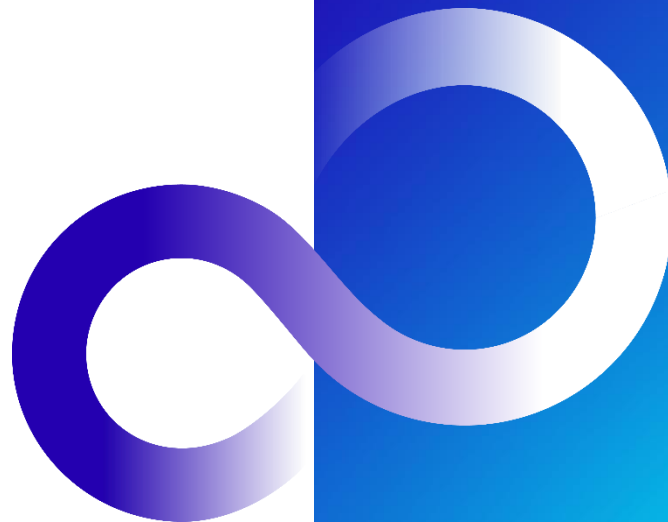
FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-V ご紹介資料

富士通株式会社

2025年12月

- ・本資料の無断複製、転載を禁じます。
- ・本資料は予告なく内容を変更する場合がございます。

Version 3.8.8

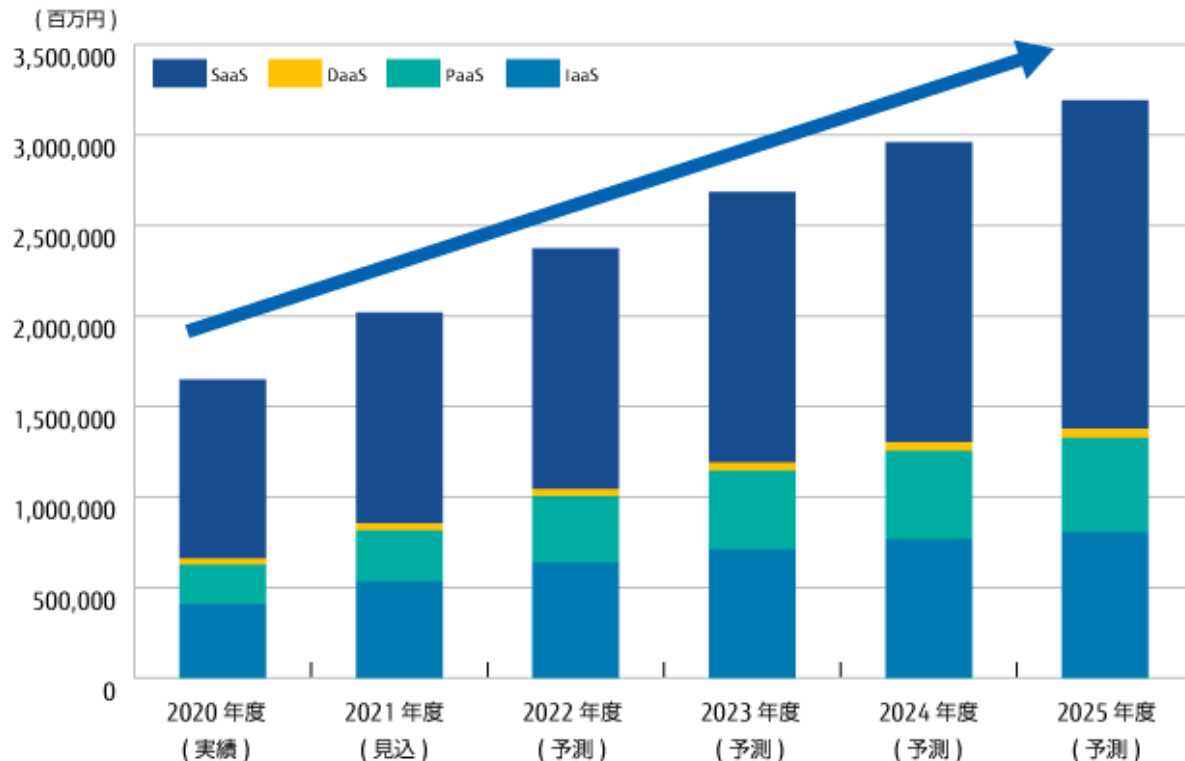


- 市場動向 クラウドを利用する理由
- サービス概要
- 特長
- 主な新機能エンハンス
- FJcloud-Vが考える、クラウド利用 5 つのステップ
- 導入事例
- FJcloud-Vをもっと知るために
- FJcloud-V サービス詳細
- ベンチマーク

市場動向 クラウドを利用する理由

国内クラウドサービス市場は拡大中

パブリッククラウド市場規模推移



2025年度には
3.2兆円に到達

富士キメラ総研
「2022 クラウドコンピューティングの現状と将来展望（市場編）」より

企業活動に「貢献する」システムへ変革するために、クラウドの利用が進んでいます。

デジタルトランスフォーメーション（DX）

- データやデジタル技術（AI・IoT）を活用し、ビジネスを変革すること
- オンプレミスでは、大量のデータ収集やSaaSなど外部サービス連携が困難

「2025年の崖」問題

- 既存システムの肥大化・複雑化が進み、DX推進の阻害要因に
- 原因
 - ・レガシーシステムの増加
 - ・IT人材不足
 - ・保守運用費の負担増

クラウド・バイ・デフォルト原則

- 政府情報システムにおけるクラウドの利用に係る基本方針
- ITの導入や運用管理などの課題をクラウドで解決

**柔軟性の高い
基盤が必要**

**12兆円の
経済損失**

**第一候補は
クラウド**

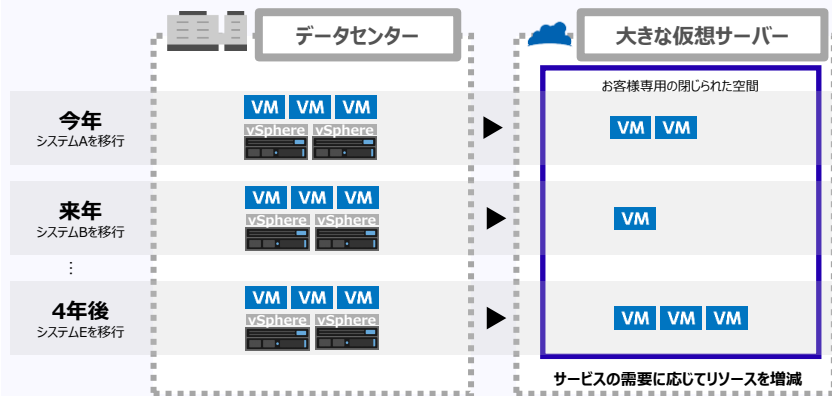
【市場拡大理由】ハードウェアからの脱却（リフト）

クラウド利用により、ハードウェアの運用コストを削減し、ビジネスサイクルにあわせたシステムに変革が可能となります。

ハードウェア更新サイクルから脱却

クラウドに一度移行すれば、サービスの需要に応じて、好きなタイミングでリソースの追加・更新・削除が可能

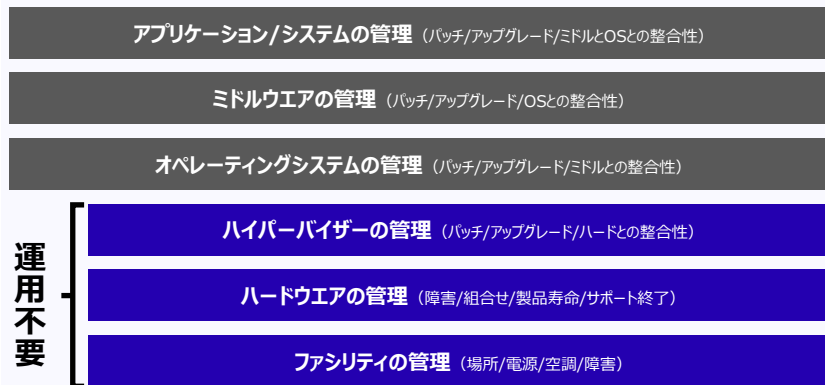
リプレイスが不要で柔軟にリソースを調整



IT担当者の運用コスト削減

OSより下層はクラウド事業者が運用するため、空いた工数でアプリケーションやシステムの改修に注力可能

クラウド移行後のIT担当者の業務



【市場拡大理由】ハードウェアからの脱却（リフト）

オンプレミス時代のまま移行したシステムを見直し、クラウドを活用したDX推進を目指します。

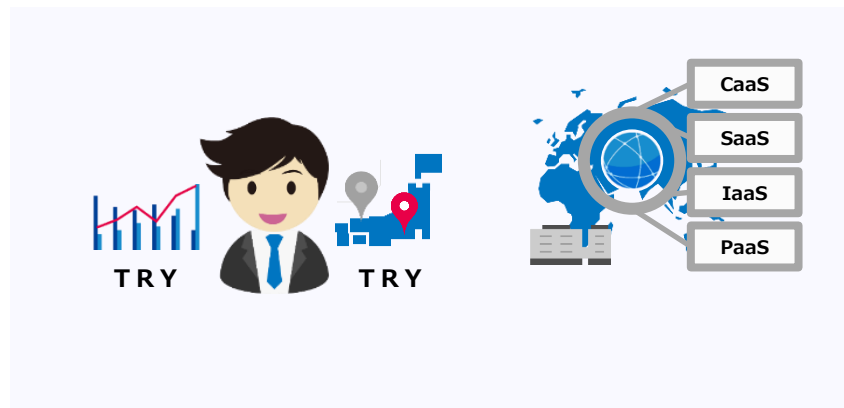
既存システムを見える化。クラウドネイティブに備える

システムの見ええ化、運用自動化やPaaS活用による効率化



データ活用やAIに対応したクラウドネイティブな基盤へ

クラウドや外部サービスの活用でビジネスメリット最大化



運用効率化やシステム基盤の最適化でDXを推進し、ビジネスを拡大

サービス概要

- お客様のご要望にお応えする多様なクラウドサービスをラインナップ
- 9,000件を超える導入実績

FUJITSU Hybrid IT Service

OSSベースのクラウドサービス

FJcloud-O

VMware vSphere®基盤のクラウドサービス

FJcloud-V

場所を選ばない専有型クラウドサービス

FJcloud-Outstation

ベアメタルクラウドサービス

FJcloud-ベアメタル

Microsoft 社のAzureを活用したクラウドサービス

for Microsoft Azure

Amazon社のAWSを活用したクラウドサービス

for AWS

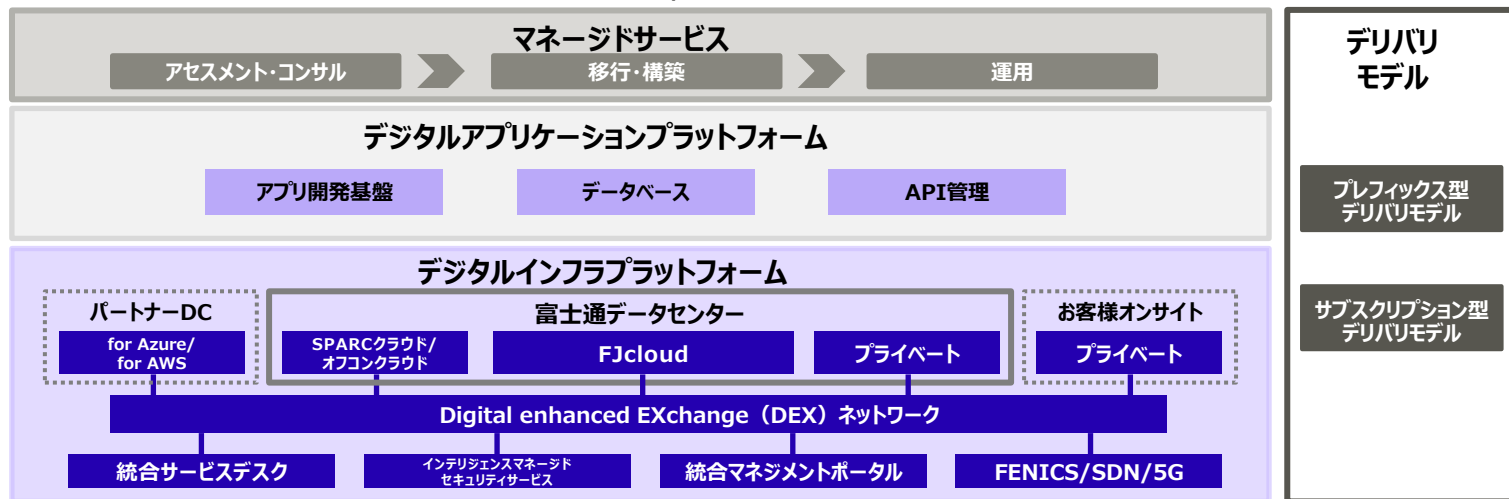


※FUJITSU Hybrid IT Service クラウドを抜粋

(ご参考) FUJITSU Hybrid IT Serviceについて

- FUJITSU Hybrid IT Service :
当社が長年提供してきた、クラウド、データセンター、ネットワーク、セキュリティ、システム運用保守などのインフラサービス、プロダクト、アプリケーション基盤などを新規技術の実装により強化し、新たにDC・クラウド接続基盤や統合マネジメントポータル等とともに、プレフィックスやサブスクリプションなどの形態で提供するソリューション群
- FJcloud : FUJITSU Hybrid IT Serviceのデジタルインフラプラットフォームを構成するサービスの一つ


<FUJITSU Hybrid IT Service>



(ご参考) FJcloud商品体系について

- FJcloud-O/V、ベアメタルに加え、Outstationを新たにラインナップ
- お客様ユースケースに合致するプライベート・モデルを提供

FUJITSU Hybrid IT Service

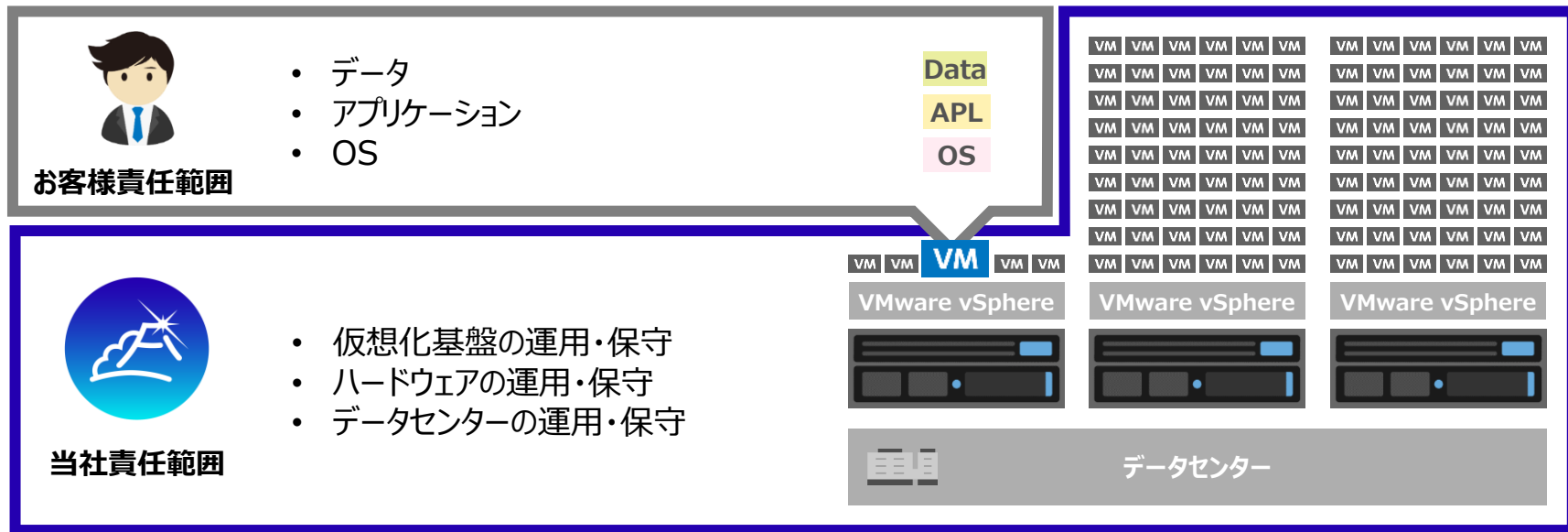
	FJcloud-O FJcloud-V		FJcloud- Outstation	FJcloud- ベアメタル
	パブリック リソース	プライベート リソース	DC利用型	個別仮想基盤管理 のユースケース向け
サーバ	共有	専有	専有	専有
ストレージ	共有	専有※	専有	共有
ネットワーク	共有	共有	専有	共有
データセンター	富士通	富士通	富士通	富士通

※FJcloud-Vは専有コンポーネントをご利用いただくことでストレージの専有が可能となります。但しローカルディスクや増設ディスクは共有となります

FJcloud-V = VMware vSphere基盤の国産パブリッククラウド

FJcloud-Vは、クラウド環境の運用を意識することなく VMware vSphere基盤の各種機能を利用できるサービスです。

「共同責任モデル」を採用し、データセンターとハードウェアの運用を当社が担当します。



**ハードウェアを所有せずにVMware vSphere基盤で
仮想化されたサーバー（VM）をご利用いただけます**



経験と実績が示す

高信頼の国産クラウドサービス

▶ **9,000** 件

Customer

幅広いお客様から支持され、お客様の声を大切に、
お客様の成長と共に進化を続けている。

▶ **17** 年間

History

5年間の社内実践を経て、2010年にサービス提供を開始。
この先もさらなる進化に向け、様々なサービスを提供予定。

▶ **80** %

DevSecOps.

サービス提供に必要な運用作業の約 8 割を自動化。
徹底した障害の発生原因を排除、日々安定稼働に向け運用を進化。

▶ **30** 種類以上

Trust

富士通、富士通グループのお客様向け業務パッケージの基盤に採用。
高い品質・機能要件に応え、幅広い業種・業務で活用。

特長

Problem

なるべく既存環境に手を加えずクラウド移行したい

安心してクラウドサービスを利用したい

ハードウェアの更新から解放されたい

サードパーティー製のデファクトスタンダードソリューションを使いたい

Solution

移行の
しやすさ

IPアドレスを変えずに
ハイブリッドクラウドを構築

高信頼

サーバー1台を作成するだけで
SLA99.99%が適用

負荷
軽減

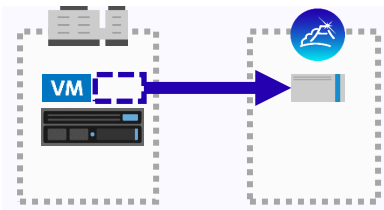
ファシリティ～ハイパーバイザー
までのレイヤーを当社が運用

利便性
向上

セキュリティ・バックアップなど
多彩なソリューションが使用可能

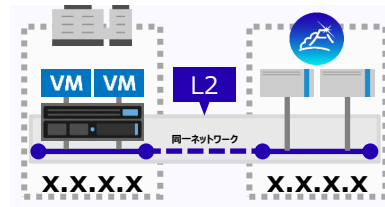
FJcloud-Vは、オンプレミスのVMware vSphere環境の移行先に最適なクラウドです。

1. オンプレミスから仮想サーバーをそのまま移行



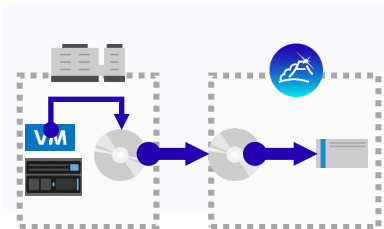
- VMware vSphereを採用。
移行に伴う技術的なリスクを最小化し、
安心して移行いただける環境を提供します。

2. 既存のIPアドレスを変更せずにクラウドを使用可能



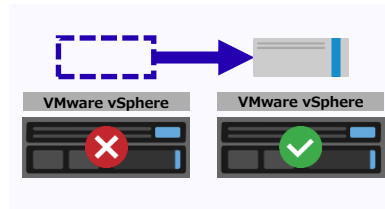
- L2延伸により、オンプレミス環境とFJcloud-Vを接続いただけます。
- IPアドレスを変えずに構築できるため、
既存システムの改修も不要。
移行に伴う影響範囲を見極めながら
段階的にクラウドリフトいただけます。

3. システム要件に応じた豊富な移行パターン



- オンプレミスの仮想サーバーからOVFファイルを
エクスポートしてFJcloud-Vにインポートする
「VMインポート」は、OSやシステム構成を
保持したまま移行いただけます。
- 「Liveマイグレーション」のご利用により、既存
システムの運用を止めずに無停止での移行
を実現します。

4. 高可用性の基盤で移行しても安心



- 物理サーバー故障の予兆検知やリソース
最適化を独自実装。障害発生を未然
防止する運用により、お客様への業務
影響を最小化します。
- 基盤すべてを冗長化。
万が一、物理サーバーが故障した場合
でもほかの物理サーバーへ切り替わり、
再起動されます。

オンプレミスのVMware vSphere環境の構成をそのままFJcloud-Vへ移行頂いた場合でも、**サーバー1台から稼働率99.99%を保証(※)**。はじめてクラウド移行されるお客様でも安心してご利用いただけます。

(※) 品質保証制度 (SLA) の詳細はこちら (<https://pfs.nifcloud.com/sla/>) からご確認ください。

お客様のお悩み

クラウド移行後も安定稼働は実現できる？



お客様IT部門



Point

ご利用されるクラウドサービスによっては、稼働率を保証するSLAの適用条件として**複数リージョン・ゾーンでの冗長構成が必要**となる場合あり。

クラウド移行後にSLAを適用されたい場合、構成見直しが必要となるケースがあるため要注意！

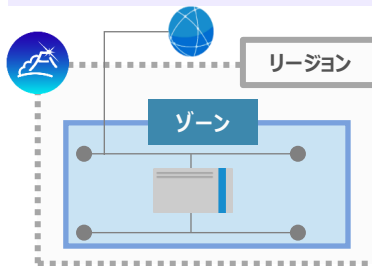
FJcloud-Vの場合

単一ゾーンでのサーバ1台からのご利用でも

- ・稼働率99.99%を保証
- ・標準実装の自動フェールオーバー(HA)機能により安心



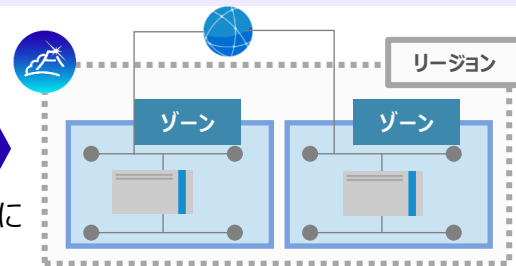
お客様IT部門



単一ゾーン構成でも稼働率99.99%を保証

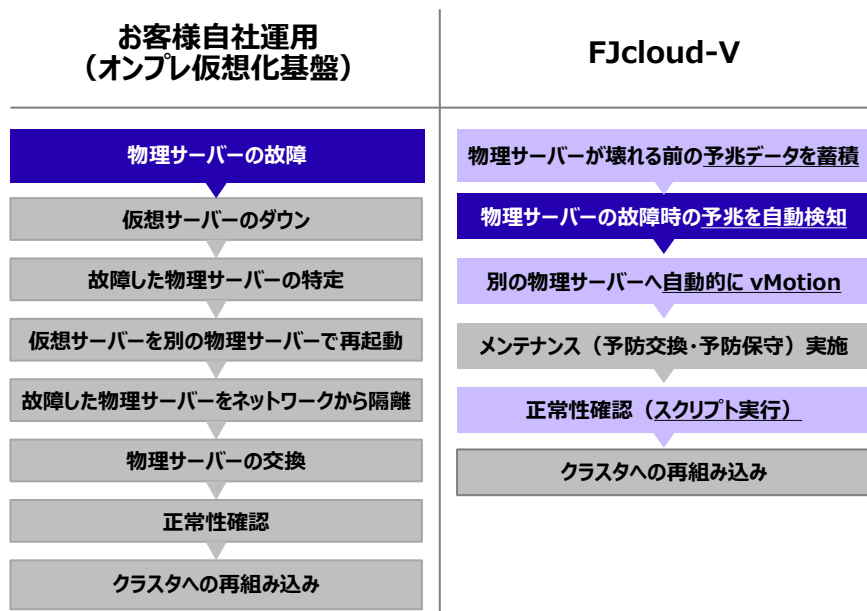
万が一の物理サーバー故障時も自動フェールオーバー(HA)機能により迅速に再起動

さらに



システム要件に応じて、複数リージョン・ゾーン構成でご利用いただくことでさらなる可用性向上の実現も可能！

物理サーバーの故障を自動で予兆検知し、仮想サーバーを事前に退避する仕組みを独自実装。
障害発生を未然防止するプロアクティブな運用により、安定したシステム稼働を実現します。



インフラ安定稼働を
実現する
運用基盤

1. 物理サーバー故障の予兆を自動検知

- FJcloud-Vの膨大な稼働ログから得た故障データの機械学習を通してトラブル傾向を分析・蓄積し、物理サーバー故障の予兆を自動検知。
- あらゆるトラブル傾向を日々蓄積・分析することで稼働品質を向上し、サーバーダウンによる障害影響の発生リスク自体を極小化します。

2. 予兆検知後の対処自動化による障害発生を未然防止

- 物理サーバー故障の予兆検知後、別サーバーへ未然に退避させるなど、プロアクティブな運用により、お客様への業務影響を最小に抑えた安定したシステム稼働を実現します。

運用保守の負荷低減による 新規企画やコア業務へのリソースシフトをサポート

当社にファシリティ～ハイパーバイザーまでの運用をお任せいただくことで、面倒なハードウェアのリプレイスやハイパーバイザーのアップデートなどの作業が不要となり、運用保守の負荷低減を実現します。

企業戦略の実現にむけた「攻め」の新規企画やコア業務へのリソースシフトを当社がサポートします。

アプリケーション/システムの管理

(パッチ/アップグレード/ミドルとOSとの整合性)

ミドルウェアの管理

(パッチ/アップグレード/ミドルとOSとの整合性)

OSの管理

(パッチ/アップグレード/ミドルとOSとの整合性)



当社が運用

ハイパーバイザーの管理

(パッチ/アップグレード/ミドルとOSとの整合性)

ハードウェアの管理

(障害/組合せ/製品寿命/サポート終了)

ファシリティの管理

(場所/電源/空調/障害)



お客様IT部門

運用負荷が高い

ファシリティ、ハードウェア
ハイパーバイザーの管理



リソースシフト



お客様IT部門

企業戦略の実現に向けた

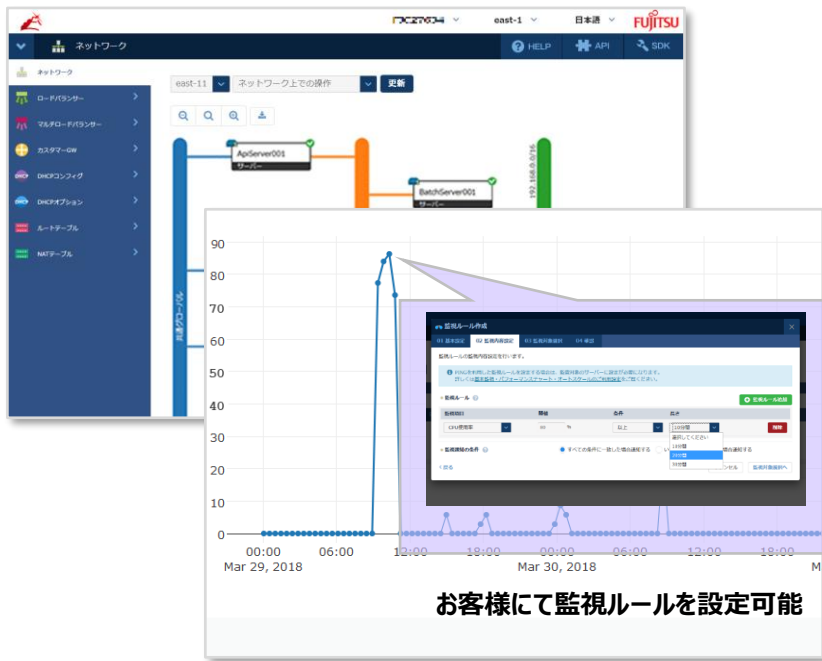
新規企画やコア業務

DXの推進

新規システム

…等

サーバー・ディスクなどのリソース管理だけでなく、ネットワーク構成の可視化やパフォーマンスの監視設定までコントロールパネルから簡単に実施いただけるため、運用負荷を軽減することができます。



運用負荷軽減を
実現する機能

1. 操作性に優れたインターフェース

目的に応じた必要な機能を迅速に見つけやすく、簡単に操作いただけるインターフェースを実装。

2. ネットワーク構成図を自動生成

最新のネットワーク構成図を自動で可視化。
専門的なスキルが必要なドキュメント作成の負荷を軽減するだけでなく、構成変更時の作業ミスリスクまで最小化。

3. パフォーマンス監視機能の提供

サーバーやロードバランサーの稼働状況・負荷状況の監視設定が可能。
統合管理プラットフォームの運用が不要となり、運用管理コストを削減。

コントロールパネルからご利用いただける機能・サービスに加え、**お客様課題を解決するサードパーティー製含めた多彩なソリューションサービス**をご提供。

オンプレミス環境でお客様が手配・構築される場合と比較して**短納期**でご利用開始いただけます。



セキュリティ

GREYセキュリティサービス

Scutum

攻撃遮断くん

Trend Micro Cloud One -
Workload Security

ESET Server Security

脆弱性診断サービス
Powered by GMOイエラエ



ネットワーク

Fastly

Ivanti Virtual Traffic Manager

統合ネットワークサービス
(IPCOM VE2シリーズ)



サポート

Windows Server向け
サポートデスク

Red Hat Enterprise Linux AUS



バックアップ

バックアップ/セキュリティサービス
(Acronis Cyber Protect Cloud)



ライセンス製品

GitLab Enterprise Edition

主な新機能エンハンス

※詳細はサービス仕様をご参照ください。

低価格サーバータイプ
 Type-c2, e2
 Type-h2r, c2r, e2r

提供するサーバータイプとこれまでの経緯

※今回提供分および価格差を下線で記載

	2010/1	2014/10	2019/4	2021/10	2023/11	
Type-e2,c2 ・全ゾーン提供 ・期間指定なし	Type-h			▲30% ➡	Type-h2	
		Type-e			▲15% ➡	Type-e2
			Type-c	▲15% ➡	Type-c2	
Type-h2r,e2r,c2r ・指定ゾーンのみでの提供 ・期間指定あり ・オートスケールでの選択不可					▲25% ➡	Type-h2r
					▲25% ➡	Type-e2r
					▲25% ➡	Type-c2r

※ Type-h2r,e2r,c2rの価格差 ▲25%は既存サーバータイプを基準にしたものです。
 (Type-h2,Type-e,Type-cとの比較でありType-e2,Type-c2との比較ではありません)
 ※タイプ別の性能スペックはそれぞれ同じです。

- ・本資料の無断複製、転載を禁じます。
- ・本資料は2023年8月22日時点の情報を元に作成されており、予告なく内容を変更する場合がございます。

タイプ・スペック変更仕様について

ゾーン指定型サーバータイプ 展開中ゾーンでのタイプ変更パターン

変更方向 ↓	▼ タイプ変更元								
	-h	-e	-c	-h2	-e2	-c2	-h2r	-e2r	-c2r
▼ タイプ変更先 ↑	-h	○	○	○	○	○	○	○	○
	-e	○	○	○	○	○	○	○	○
	-c	○	○	○	○	○	○	○	○
	-h2	○	○	○	○	○	○	○	○
	-e2	○	○	○	○	○	○	○	○
	-c2	○	○	○	○	○	○	○	○
	-h2r	○	○	○	○	○	○	○	○
	-e2r	○	○	○	○	○	○	○	○
	-c2r	○	○	○	○	○	○	○	○

ゾーン指定型サーバータイプ 非展開ゾーンでのタイプ変更パターン

変更方向 ↓	▼ タイプ変更元								
	-h	-e	-c	-h2	-e2	-c2	-h2r	-e2r	-c2r
▼ タイプ変更先 ↑	-h	○	○	○	○	○	○	○	○
	-e	○	○	○	○	○	○	○	○
	-c	○	○	○	○	○	○	○	○
	-h2	○	○	○	○	○	○	○	○
	-e2	○	○	○	○	○	○	○	○
	-c2	○	○	○	○	○	○	○	○
	-h2r	×	×	×	×	×	×	×	×
	-e2r	×	×	×	×	×	×	×	×
	-c2r	×	×	×	×	×	×	×	×

- ・本資料の無断複製、転載を禁じます。
- ・本資料は2023年8月22日時点の情報を元に作成されており、予告なく内容を変更する場合がございます。

「Type-e2,c2」の仕様詳細

提供サーバータイプ名	Type-e2 Type-c2
提供サーバータイプ数	Type-e2 : 27 (e2-mini~e2-wlarge) Type-c2 : 8 (c2-small~c2-large) ⇒ Type-e, Type-cと同じ
(内部的な) サーバースペック	⇒ Type-e, Type-cと同じ
Type-e, Type-cとの差異	提供価格のみ

※Type-e2,c2の提供と同時にType-e,cの新規作成はできなくなる。(Type-h2提供時と同じ)

※Type-e2,c2の提供後も、既存のType-e,cは継続利用可能。

※Type-e2,c2の提供後も、他サーバータイプからType-e,cへの変更は可能。

- ・本資料の無断複製、転載を禁じます。
- ・本資料は2023年8月22日時点の情報を元に作成されており、予告なく内容を変更する場合がございます。

「Type-h2r,e2r,c2r」のサービスイメージ

ゾーン選定



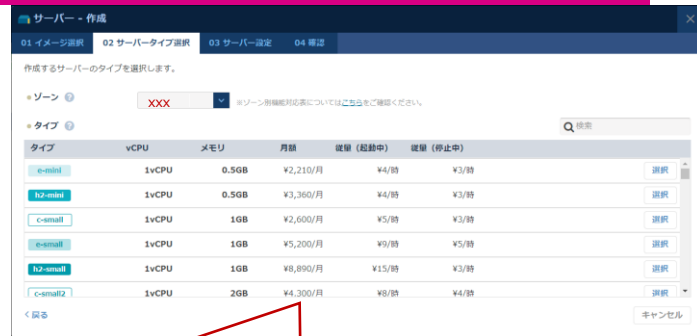
- ・対象期間
 - ・対象ゾーン
- をFJcloud側で決定します。

事前告知(WEB)

対象期間 : A年A月A日～ B年B月B日
対象ゾーン : xxx
↓以下のサーバタイプを提供します。
c2r-small
c2r-small2
c2r-medium
c2r-medium4
c2r-large
e2r-small
e2r-small2
e2r-medium
e2r-medium4
e2r-large
e2r-large8
e2r-xlarge8
e2r-wlarge16
h2r-small
h2r-small2
h2r-small4
h2r-medium
h2r-medium4
h2r-medium8
h2r-large
h2r-large8
h2r-large16
h2r-xlarge8
h2r-xlarge16
h2r-xlarge24
h2r-wlarge16
h2r-wlarge24
h2r-wlarge32
h2r-tlarge32
h2r-tlarge48
h2r-qlarge64



コントロールパネルで選択/作成



c2r-small 1vCPU 1GB ¥xxx/月 ¥x/時 ¥x/時 **選択**

対象期間になると対象ゾーンでのみ選択可能になります

サーバタイプ名 : Type-h2r, Type-e2r, Type-c2r

1ヶ月前を目途に事前告知します。

- ・本資料の無断複製、転載を禁じます。
- ・本資料は2023年8月22日時点の情報を元に作成されており、予告なく内容を変更する場合がございます。

「Type-h2r,e2r,c2r」の仕様詳細

提供サーバータイプ名	Type-h2r Type-e2r Type-c2r
提供サーバータイプ数	Type-h2r : 18 (h2r-small～h2r-qlarge64) Type-e2r : 8 (e2r-small～e2r-wlarge16) Type-c2r : 5 (c2r-small～c2r-large)
(内部的な) サーバースペック	⇒ Type-h2,Type-e,Type-cと同じ
Type-h2,Type-e,Type-cとの差異	提供価格、および、提供ゾーン、提供期間 また、オートスケールでは選択不可

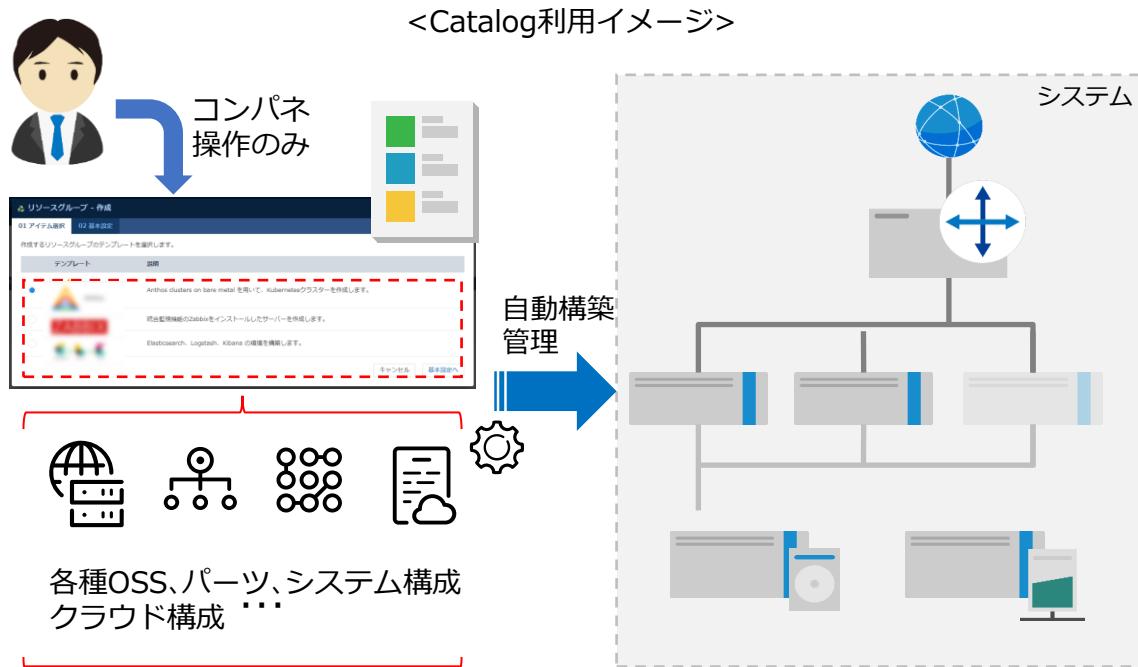
- ・本資料の無断複製、転載を禁じます。
- ・本資料は2023年8月22日時点の情報を元に作成されており、予告なく内容を変更する場合がございます。

システム構築自動化 Catalog

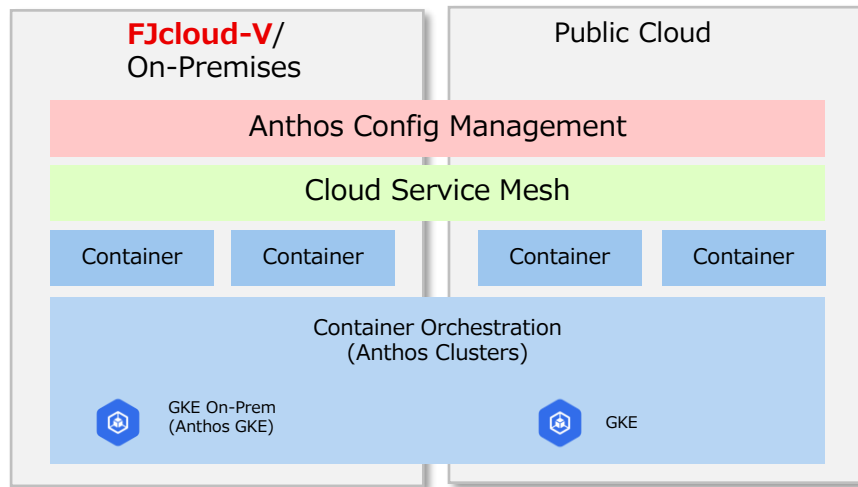
Catalogとは

テンプレート化されたクラウド構成を自動で構成、管理できるプラットフォーム

システムの構築が標準化・簡易化され、
構築・運用の負荷が軽減



- Anthosとは、「ハイブリッド／マルチクラウド環境で動作する、アプリケーションモダナイズを実現するためのKubernetesのプラットフォーム」です。



- Cloud Service Meshを導入する事により、サービス間のトラフィックや、メトリクスの収集・可視化がされます。

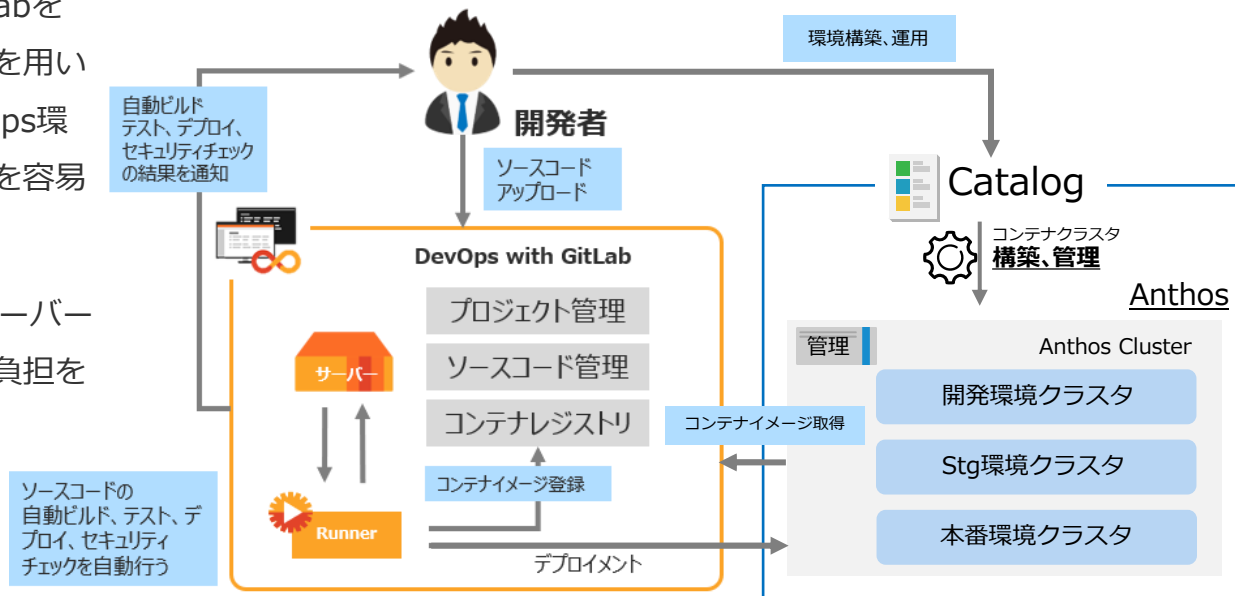
○ クラスタ構成例（スタンドアローンクラスター）

FJcloud-V



自前のDevSecOps環境を構築、CI/CDを開始したい

- CatalogのAnthosとDevOps with Gitlabを組み合わせて利用することでコンテナを用いた開発のCI/CD環境を構築、DevSecOps環境の運用（設定、ネットワーク管理）を容易に行えます。
- DevOps with Gitlabはユーザー側でサーバーを管理する必要がなく、利用者の運用負担を軽減することができます。

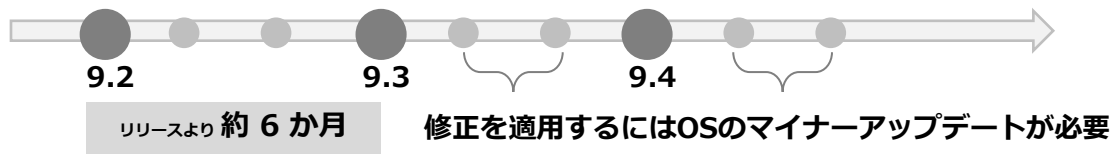


その他

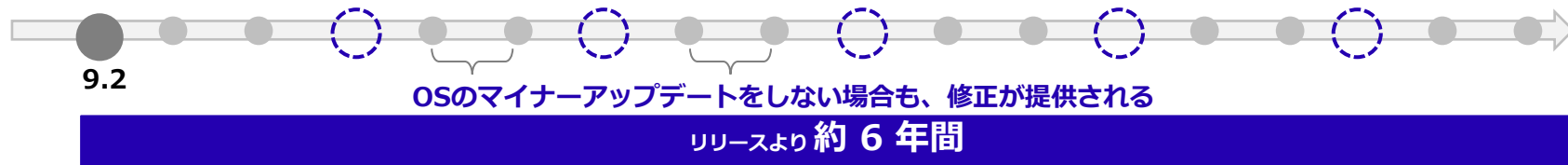
Red Hat Enterprise Linux AUS

Red Hat Enterprise Linux 8.4および8.6および9.2にAUSサポート（Advanced Mission Critical Update Support）が付属したサービスです。通常、RHELの修正提供は最新マイナーリリースより6か月間となるところ、AUSでは6年間に延長され、その期間マイナーバージョンアップが不要となり長期安定稼働が可能となります。

Red Hat Enterprise Linux通常サポート



Red Hat Enterprise Linux AUS



(RHEL9.2AUSの場合、2023年5月10日～2029年5月31日 ※8.4：2027年5月31日まで、8.6：2028年5月31日まで)

※期間中の修正が提供されます。（機能追加などは含みません）

FJcloud-Vが考える、クラウド利用

5 つのステップ

段階的なクラウド利用をFJcloud-Vは推奨しています。

Step1

オンプレミス 環境の仮想化



物理サーバーとシステムを切り離し、ハードウェアとシステムのライフサイクルを分離

Step2

クラウドの 体験・評価



オンプレミス環境の一部をクラウドに移行し、クラウドを評価・技術者を育成

Step3

クラウドの 利用拡大



運用経験を踏まえて移行方針を検討。クラウドへのリフトを推進し、運用負荷を軽減

Step4

ビジネススピードに 対応するクラウド



システムの全体像を見える化し、API活用による自動化など、運用効率化を検討

Step5

クラウド利用の 最適化



マルチクラウドや一部システムのオンプレミス回帰により、ビジネスメリットを最大化



現在の御社

既存インフラの設計そのままクラウドヘリフト

クラウドネイティブなインフラヘシフト

お客様のゴールに合わせた機能・サービスを提供いたします

Step1 オンプレミス環境の仮想化

Step1

Step2

Step3

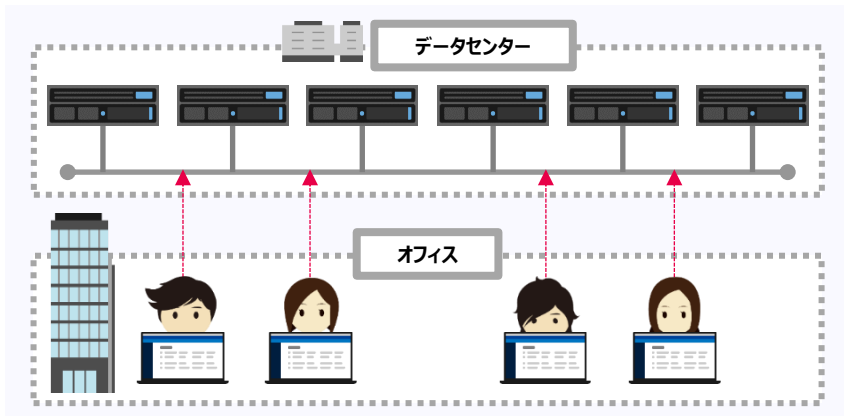
Step4

Step5

はじめにオンプレミス環境のサーバーの仮想化を行います。

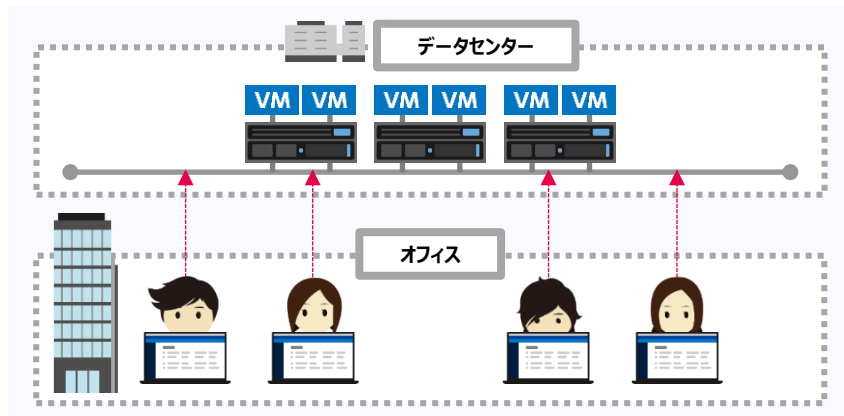
物理サーバーをそのまま利用

ハードウェアとシステムのライフサイクルが同一の状態



オンプレミス環境を仮想化

自社データセンター内でサーバーを仮想化する



ハードウェアとシステムのライフサイクルを分離し、
クラウド移行をしやすい環境に

Step2 クラウドの体験・評価

Step1

Step2

Step3

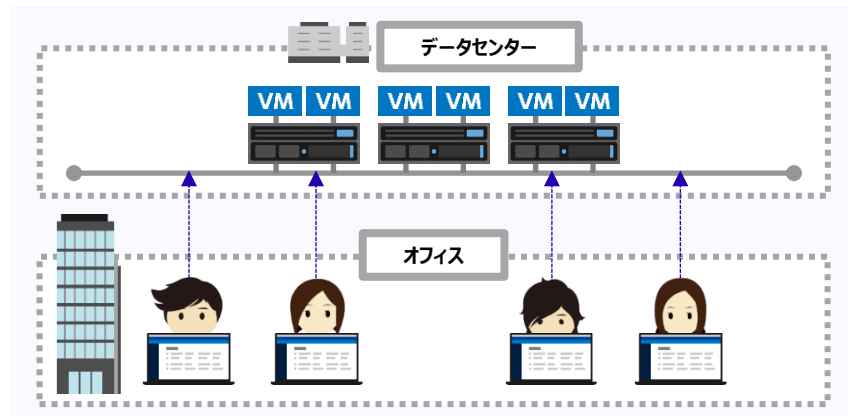
Step4

Step5

影響が少ない仮想サーバー（VM）をクラウドに移行し、クラウドを体験します。

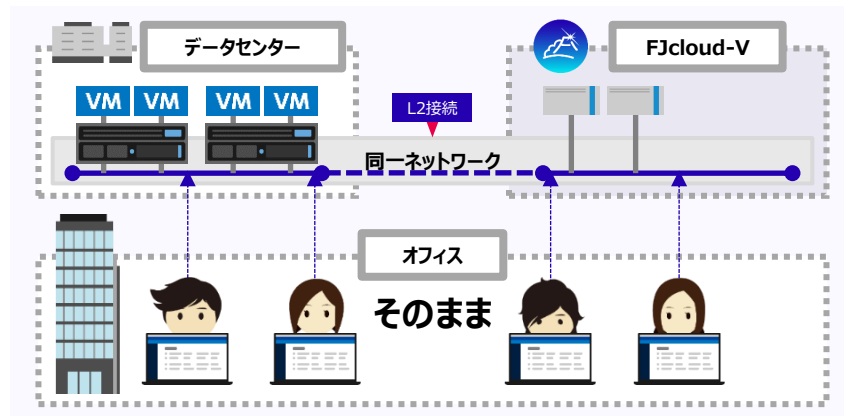
オンプレミス環境を仮想化

自社データセンター内でサーバーを仮想化

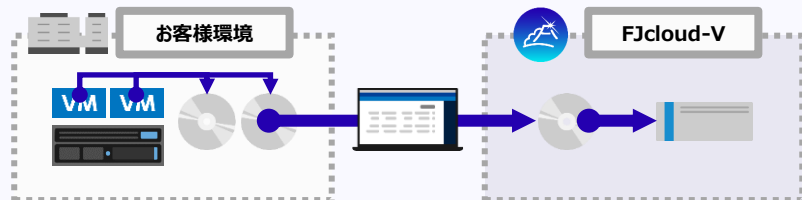


ハイブリッドクラウドを構築

一部のVMをFJcloud-Vに移行。利用者環境はそのまま



トライアルでクラウドを利用し、クラウドの評価や技術者育成を実施

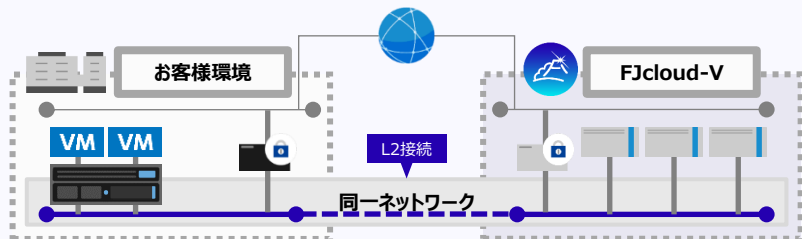


VMインポート

OSやシステム構成をそのままFJcloud-Vにサーバー作成

オンプレミス環境の仮想サーバーのOVFファイルをエクスポート、FJcloud-Vにインポートしてサーバーを作成すれば移行完了。

1台から利用可能なので、オンプレミス環境の仮想サーバー（VM）を使ってクラウドの評価・体験ができます。



拠点間VPNゲートウェイ

IPアドレスそのままオンプレミス環境とFJcloud-Vをセキュアに接続

オンプレミス環境のルーターの設定変更だけで、L2延伸で簡単にFJcloud-Vと接続できるインターネットVPNです。

既存システムの設定変更が不要になるため、ユーザーは、サービスがどの環境にあるかを意識せずに利用可能です。

Step3 クラウドの利用拡大

Step1

Step2

Step3

Step4

Step5

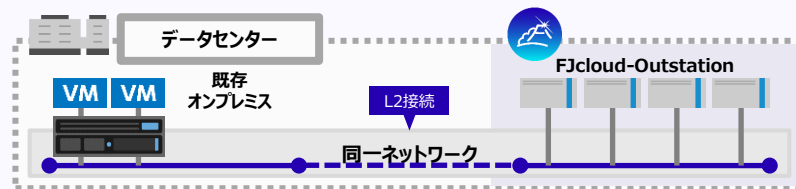
クラウドを体験し、運用ノウハウが蓄積したら、本格的に業務システムの移行を行います。

パブリッククラウドへの移行で問題ない場合

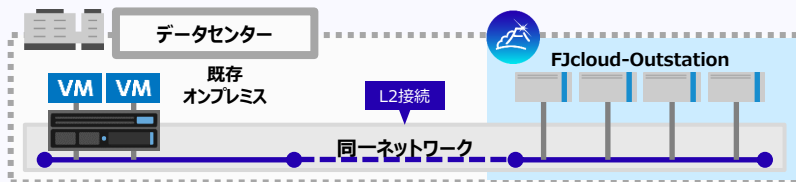
将来的な全面移行を目指して、移行作業を引き続き実施

大規模化の予定・セキュリティ要件などがある場合

プライベートなクラウド環境の導入を検討する



運用経験を踏まえて移行方針を策定し、クラウドへのリフトを推進

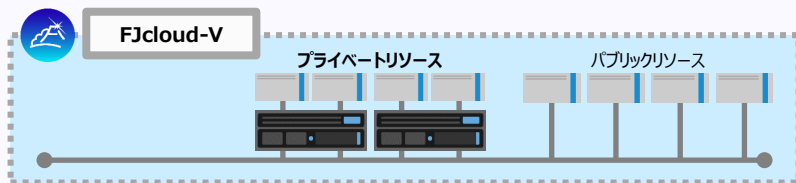


FJcloud-Outstation(※)

お客様専用のFJcloud-V環境を構築・提供

特定のシステムをハウジングのようなプライベートな環境下に置きながら、パブリッククラウドのように運用できます。

- ハイパーバイザーより下層のレイヤーの管理はFJcloud-Outstationが実施
- リソースはFJcloud-Outstationのコントロールパネルから管理
- ほかのFJcloud-V環境とあわせた一元管理が可能
- 同一データセンター内にあるオンプレミス環境と簡単に構内接続



プライベートリソース(※)

FJcloud-Vのサーバー部分を専有環境で利用可能

ほかの利用者と物理的に隔離された環境にお客様専用のサーバーを構築し、提供します。

(※)詳細はサービス別のご紹介資料をご参照ください。

Step4 ビジネススピードに対応するクラウド

Step1

Step2

Step3

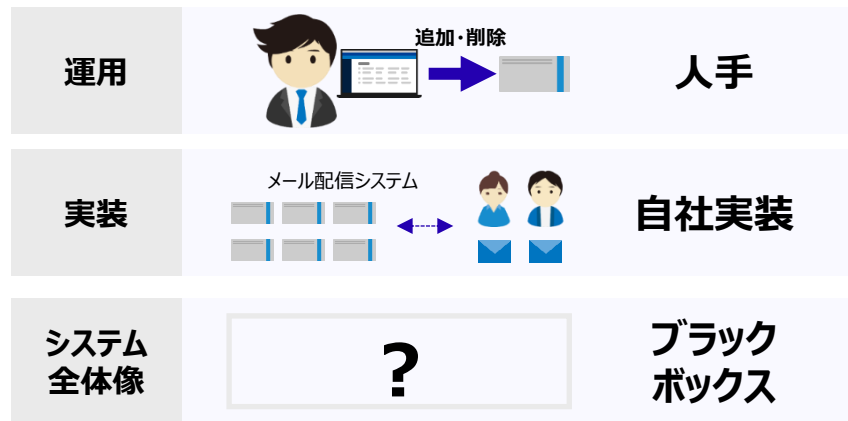
Step4

Step5

クラウドへのリフトが完了したら、クラウドの機能を活用した運用効率化を検討します。

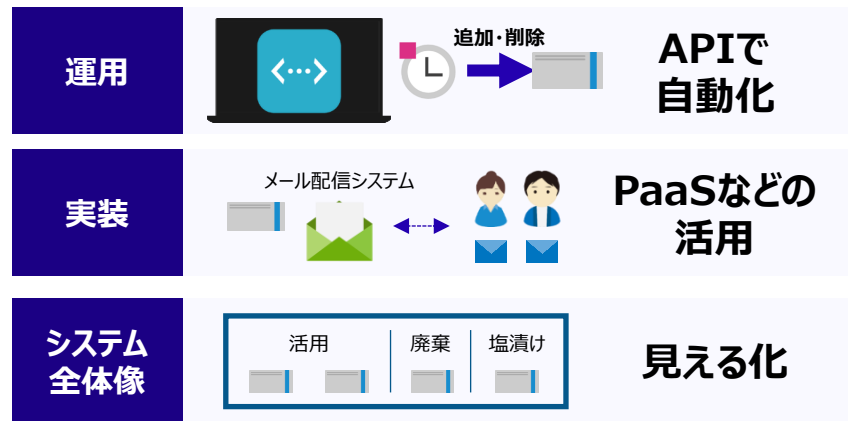
クラウド移行を実施した環境

システムの中身は既存のまま

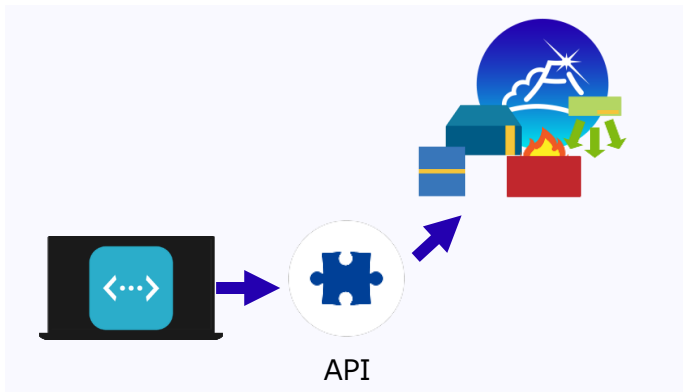


クラウドネイティブに向けた既存システムの見直し

システムの全体像を「見える化」、運用や実装を見直し



システムを取捨選択し、運用が必要なシステムは効率化を実施



FJcloud-V API

サーバーやディスクの作成・起動・停止をプログラムで実行し、人が介在しない運用を実現

- 500種類以上のAPIで定常的な業務の自動処理を実現
- ほかのツールやクラウドとの連携はREST APIを活用
- 作業時間のロスや作業ミスによる手戻りがなく作業の標準化が可能

※ FJcloud-V APIでコントロールできるコンポーネント (<https://docs.nifcloud.com/>)



エンジニアリングパーツ (PaaS)

運用負荷を軽減し、アプリケーション開発へのリソース集中が可能

- RDB (データベース)
- DNS / GSLB (広域負荷分散) / ドメイン取得・管理
- ESS (メール配信)
- タイマー
- スクリプト

Step5 クラウド利用の最適化

Step1

Step2

Step3

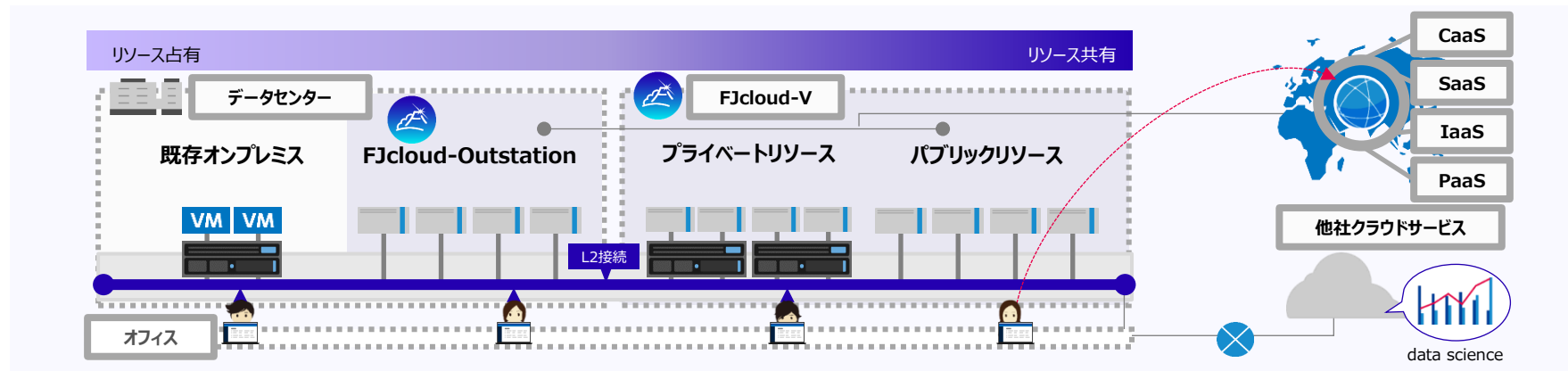
Step4

Step5

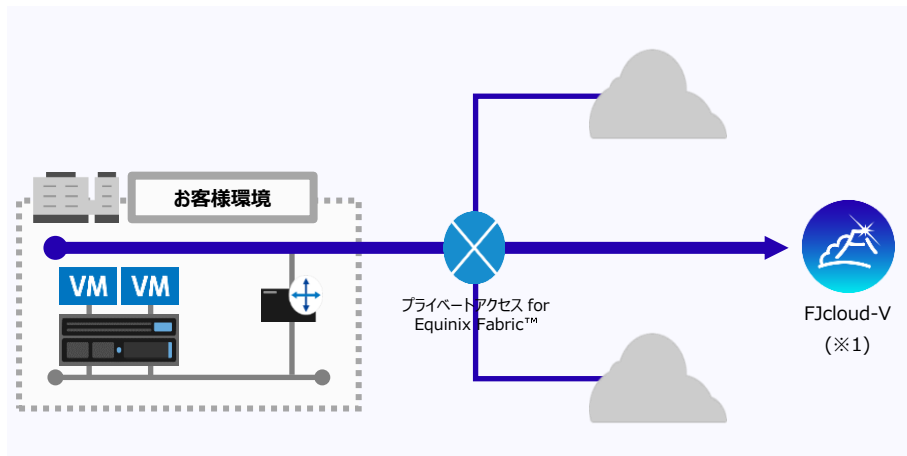
システムを「見える化」した結果に応じて、それぞれのシステム基盤を最適化します。

No Boundaryな環境を実現

マルチクラウドや外部サービスの利用を検討。重要情報はオンプレミス、負荷対策が必要なものはクラウドなど使い分け。



ビジネスメリットの最大化のために最適な基盤を選択し、DXを推進



(※1) 利用可能なリージョンはeast-2となります。

https://pfs.nifcloud.com/service/pa_equinix_cloud_exchange.htm

プライベートアクセス for Equinix Fabric™

他社クラウドへの接続をセキュアかつ簡単に実現

- インターネットを経由せずにEquinix Fabric™ 網内を経由して、お客様拠点とFJcloud-Vとのセキュアかつハイパフォーマンスな通信を実現

導入事例

製造業 FJcloud-Vの利用機能

拠点間VPNゲートウェイ

VMインポート

概要説明

L2延伸とVMインポートでスマートにクラウド移行したDR環境リプレイス案件

お客様の課題

- DR環境のコスト・運用工数の軽減
- 移行時に既存ネットワークやアプリケーションに影響を与えたくない
- 担当者退社 & 仕様書がなく、再作成不可能なサーバーがある

FJcloud-Vでの解決

- クラウドへのDR環境構築でコスト最適化 & 運用工数を軽減
- インターネットVPNによるL2延伸でネットワーク構成を再現
- VMインポートで再作成不可能なサーバーをそのまま移行

案件概要

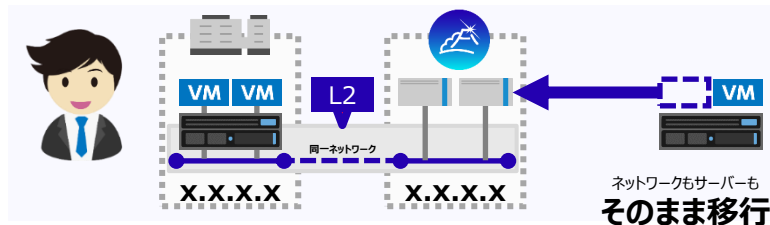
システム概要：DR基盤

案件規模：約15万円/月 ※FJcloud-V利用金額

受注ポイント：

- L2延伸ができたこと
- 新規構築が難しいサーバーを再作成せず移行できたこと
- ・ クラウド移行前と同様のネットワーク構成を再現できたこと

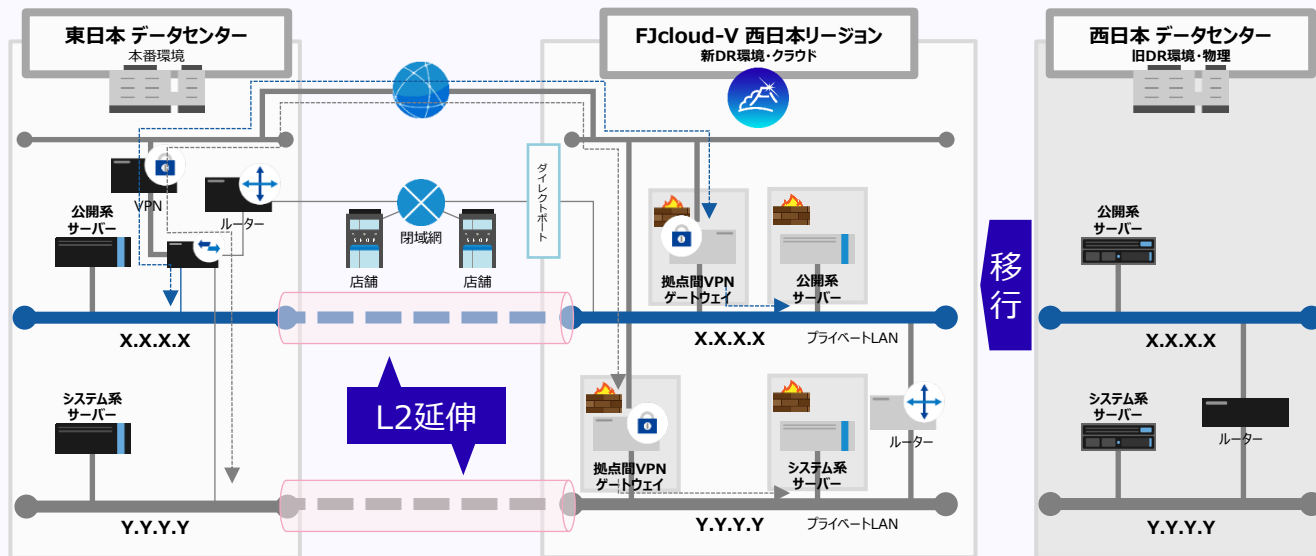
将来性/今後の展開：特になし



L2延伸で、既存のネットワーク構成をクラウドで再現

既存環境への影響を最小限にクラウド移行

構成イメージ



概要

- DR環境を移行
西日本のデータセンター
→FJcloud-V西日本リージョン
- 本番環境への変更不可
東日本のデータセンター

ネットワーク

- 拠点間VPNゲートウェイはL2延伸
(L2TP/IPSec) に対応しているため、本番環境とFJcloud-VをインターネットVPNで接続することで移行前のネットワーク構成を再現
- 公開系・基幹系の2セグメントでIPアドレス変更なし

サーバー

- VMインポートでFJcloud-Vにサーバーを作成することで、再作成不可能サーバーをそのまま移行

卸売業・小売業

FJcloud-Vの利用機能

VMインポート

ダイレクトポート

概要説明

大手ECサイト基盤をFJcloud-Vとオンプレミスのハイブリッドクラウド移行

お客様の課題

- 繁忙期に合わせたサーバーサイジングによって閑散期は過剰投資に
- 物理保守が大きな負担となっていた
- クラウドに移行してもサイトレスポンスは絶対落とせない

FJcloud-Vでの解決

- アクセス状況に応じたりソース増減で過剰投資を解消
- WEBサーバーをクラウド化することで保守の負担を軽減
- DBサーバーはオンプレミスで構築し、同一データセンター内で構内接続することで、サイトレスポンスを維持

案件概要

システム概要：ECサイト基盤

案件規模：約750万円/月 ※FJcloud-V利用金額

受注ポイント：

- ・ 同一データセンター内のオンプレミス環境と構内接続ができた点
- ・ VMインポートで新規構築が難しいサーバーをそのまま移行可能だった点



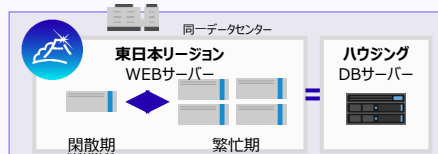
性能保証できる
オンプレミス

でも、
過剰投資
になる



過剰投資を抑制できる
クラウド

でも、
性能保証
ができない

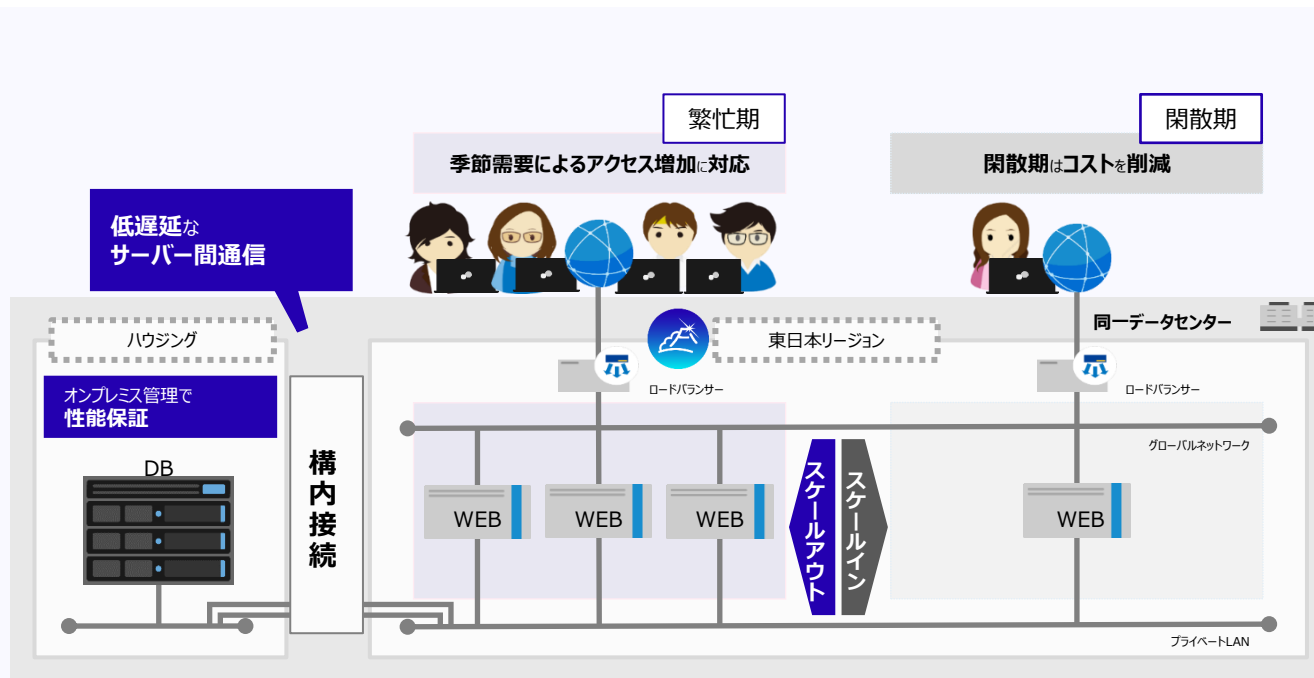


オンプレミスとクラウドの
“いいとこ取り”

コスト削減と性能保証を両立させ、高いサイトレスポンスを維持

DBのみオンプレミスのまま、Web/APをクラウド化

構成イメージ



概要

- WEBサーバーをFJcloud-V東日本リージョンに移行
- DBサーバーをFJcloud-V東日本リージョンと同一データセンター内のハウジング環境に移行

WEBサーバーをクラウド化

- リソース増減したいWEBサーバーをクラウド、性能保証したいDBサーバーをオンプレミスで運用するハイブリッドクラウドを採用
- FJcloud-VとオンプレミスはセキュアにL2構内接続

サーバー移行

VMインポートでのサーバー作成により、オンプレミスの既存OSをそのまま利用でき、アプリケーション改修が不要に

製造業 FJcloud-Vの利用機能 VMインポート ダイレクトポート 自動フェイルオーバー（HA機能） 概要説明

自社内の基幹システム基盤をデータセンターへ移行し、クラウドに開発環境とDR環境を構築

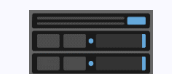
お客様の課題

- オンプレミスの運用負荷が大きい
- クラウドでは満たせない要件がある
 - 特定のVM群で障害時は同時にフェイルオーバーさせる必要があった

FJcloud-Vでの解決

本番 = オンプレミス、開発・DR = FJcloud-V
を同一データセンター内でプライベート接続

- 要件を満たしつつ物理運用負荷を軽減
- 迅速なサーバー払い出しで事業部門のビジネスを加速



拡張性が高いオンプレミス

でも、

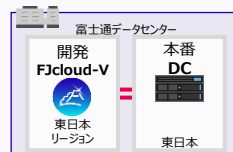
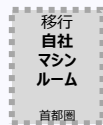
運用が大変



運用がラクなクラウド

でも、

制約がある



オンプレミスとクラウドの“いいところ取り”

案件概要

システム概要：基幹システム基盤

案件規模：約200万円/月 ※FJcloud-V利用金額

受注ポイント：

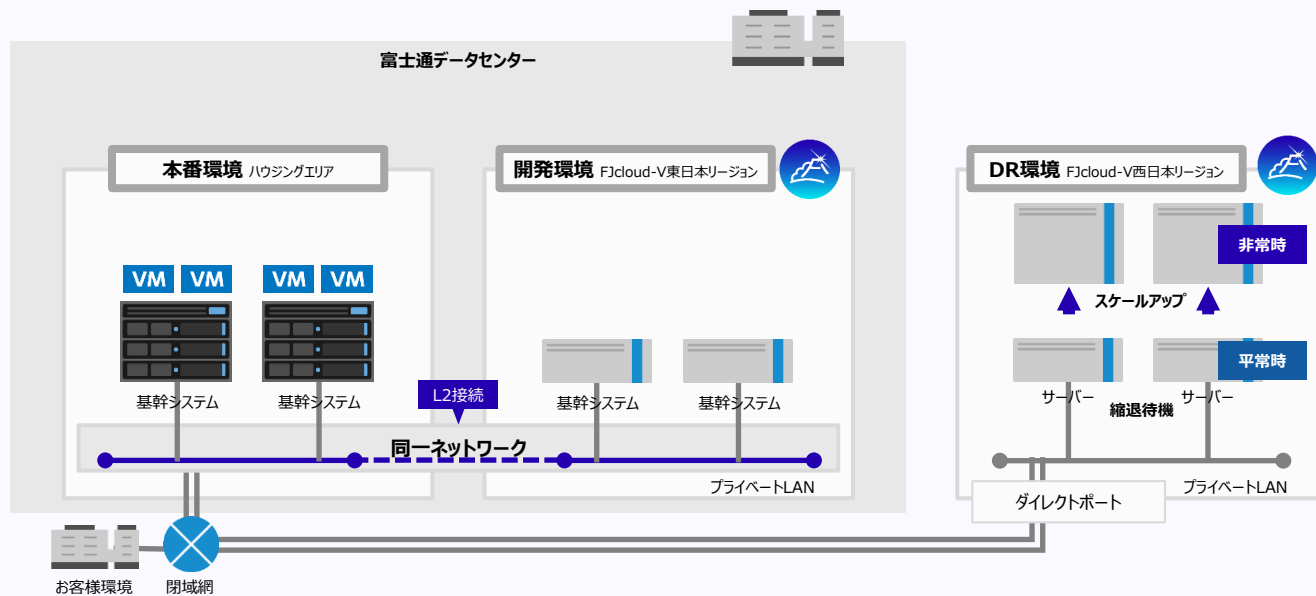
- ・ ディスク、ストレージ性能が高性能なこと
- ・ テスト利用で、コントロールパネルのGUIが高評価を受けたこと
- ・ VMインポートでオンプレミス環境のWindows 2008が引き続き利用可能となり、アプリケーションの改修が不要になったこと

将来性/今後の展開：本番環境のクラウド化も検討中

オンプレミスとクラウドの“いいところ取り”を実現

基幹システムの段階的クラウド化

構成イメージ



概要

- 本番環境を移行
自社サーバーーム→東日本のデータセンター
- 開発環境を新規構築
FJcloud-V東日本リージョン
- DR環境を新規構築
FJcloud-V西日本リージョン

システムの一部をクラウド化

- クラウドでは満たせない要件がある本番環境をオンプレミス、他環境をクラウドで運用するハイブリッドクラウドを採用
- 東日本のオンプレミスとFJcloud-VはセキュアにL2構内接続

サーバー移行

VMインポートでのサーバー作成により、オンプレミスの既存OSをそのまま利用でき、アプリケーション改修が不要に

製造業 FJcloud-Vの利用機能

オブジェクトストレージ

ISOイメージ

概要説明

首都圏の自社内にて運用の基幹システム基盤を、サーバー老朽化更新時にデータセンター移行すると共にDR環境をクラウドに構築

お客様の課題

- 老朽化した自社マシンルームに基幹システムがあり、事業継続性に不安
- コストをあまりかけずにDR環境を構築したい

FJcloud-Vでの解決

データセンターとFJcloud-V東西リージョンにリスク分散

- 災害対策に優れた堅牢なデータセンターへ本番環境を移行
- FJcloud-V東西リージョンへ開発環境・DR環境を分けて構築
- 通常時はサーバーを縮退待機させDR環境を低コストで運用

案件概要

システム概要：基幹システム基盤

案件規模：約200万円/月 ※FJcloud-V利用金額

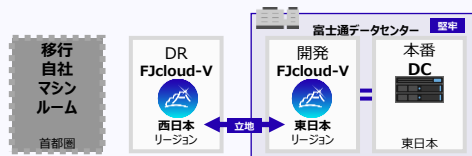
受注ポイント：

- ・ ディスク、ストレージ性能が高性能なこと
- ・ テスト利用で、コントロールパネルのGUIが高評価を受けたこと
- ・ VMインポートでオンプレミス環境のWindows 2008が引き続き利用可能となり、アプリケーションの改修が不要になったこと

将来性/今後の展開：本番環境のクラウド化も検討中



すべてのサーバーが自社マシンルームにあり
事業継続性に不安

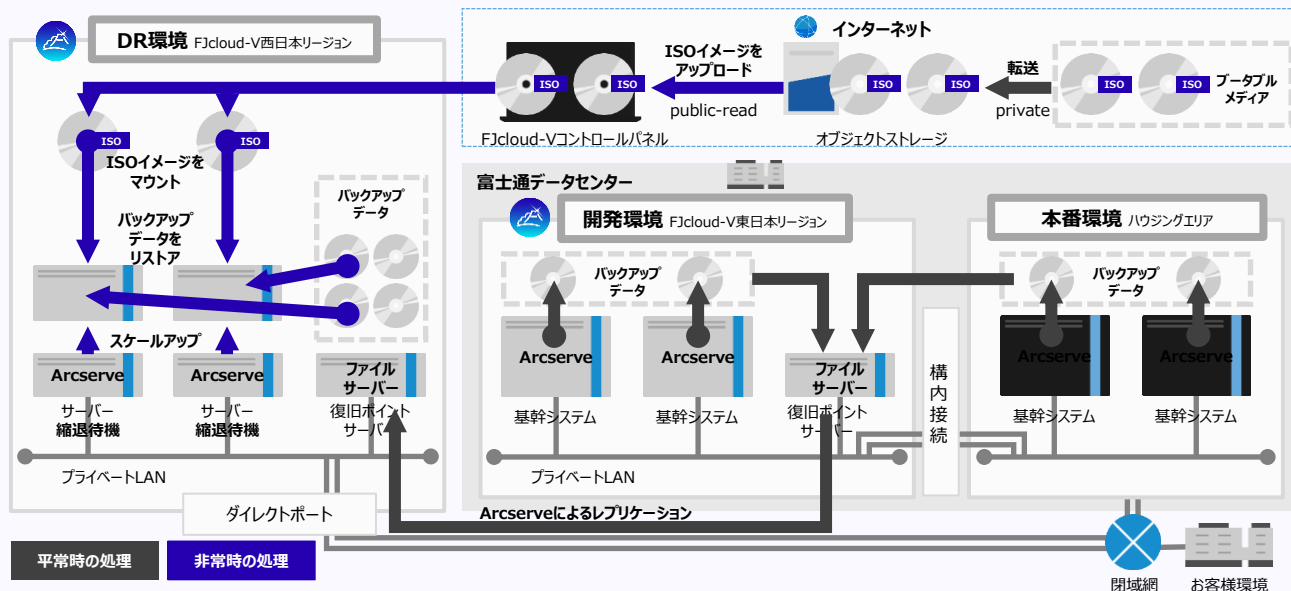


データセンター、クラウド、東西、に環境を分散し
事業継続性を向上

RTOを満たすBCP対策を低コストで実現

DC移行 & DR環境構築によるBCP実現

構成イメージ



概要

- RTO：48時間、RPO：24時間
- 本番環境：東日本のデータセンター
- 開発環境：FJcloud-V東日本リージョン
- DR環境：FJcloud-V西日本リージョン
- バックアップソフト：Arcserve

平常時の処理

- バックアップソフトのブータブルメディア（ISOイメージ）を、オブジェクトストレージに転送
- 本番環境および開発環境のイメージバックアップをバックアップソフトで取得し開発環境のファイルサーバー内に格納後、ファイルサーバーをDR環境にレプリケーション

非常時の処理

- オブジェクトストレージのブータブルメディアを、FJcloud-Vの「ISOイメージ」機能を用いてFJcloud-Vのコントロールパネルからアップロード
- アップロードしたISOイメージを、DR環境にて縮退待機させているサーバーにマウントし、スケールアップやストレージ増設などを実施
- サーバーを起動後、開発環境からレプリケーションしておいたバックアップデータをリストア
- インターネット回線があれば実施可能

終了予定サービスの最適コストでの延命

製造業

FJcloud-Vの利用機能

VMインポート

ダイレクトポート

概要説明

オンプレミス環境老朽化のため、低コストでの運用を目指しクラウド移行

お客様の課題

- オンプレミスだと5年間の利用が前提
- OS以上には手を加えたくない
(Windows Server 2000、2003)
- オンプレミスに残す資産もあり、ハイブリッド構成の想定も必要

FJcloud-Vでの解決

- 月額利用が可能なFJcloud-Vでリプレイス
- VMインポートを用いてOS以上をそのまま持ち込みアプリ改修を抑止
- オンプレミスをFJcloud-Vと同一データセンター内へ持ち込み、従来通りのネットワーク構成を維持



アプリ改修
無理



5年も
使わない

もうすぐ終わるサービスに

人手もお金もかけられない



FJcloud-Vなら

そのまま移行・不要になれば解約できる



案件概要

システム概要：情報配信系サービス基盤

案件規模：約6,000万円/月 ※FJcloud-V利用金額

受注ポイント

- ・ 競合他社では動作しないOSが動作可能なこと
- ・ 「FUJITSU Cloud Service U5（現：FUJITSU Cloud Service for SPARC）」「富士通データセンターのハウジング環境」「FJcloud-V」を富士通データセンター内で構内接続できたこと
- ・ オンプレミスのネットワーク構成を再現できたこと

将来性/今後の展開：クライアント数の増加に伴い、システムを引き続き増強予定

ハードウェア更新サイクルからの脱却・最低限の工数でのクラウド移行を実現

卸売業・小売業・流通業

FJcloud-Vの利用機能

プライベートLAN

追加NIC

Acronis Cyber Protect Cloud

概要説明

最重要商品を司る、保守期限切れが迫ったオンプレミス環境からのクラウド化

お客様の課題

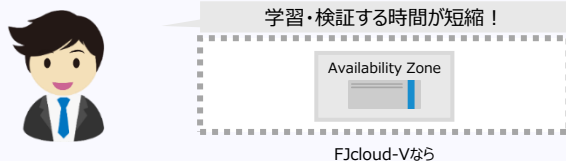
- 物理基盤のリプレイスが負担
- 基幹システムのため、高可用性が求められるが、クラウドの構築経験がない
- 保守期限切れが間近で時間がない

FJcloud-Vでの解決

- クラウド化でリプレイスから解放
- FJcloud-Vならサーバー1台から、
 - 自動フェイルオーバー（HA機能）を標準実装
 - SLA99.99%適用
- 他社クラウドに比べて、学習や検証時間を短縮



高可用性の構成やSLA適用が大変



簡単に高可用性構成&SLA適用

案件概要

システム概要：基幹システム

案件規模：約130万円/月※FJcloud-V利用金額

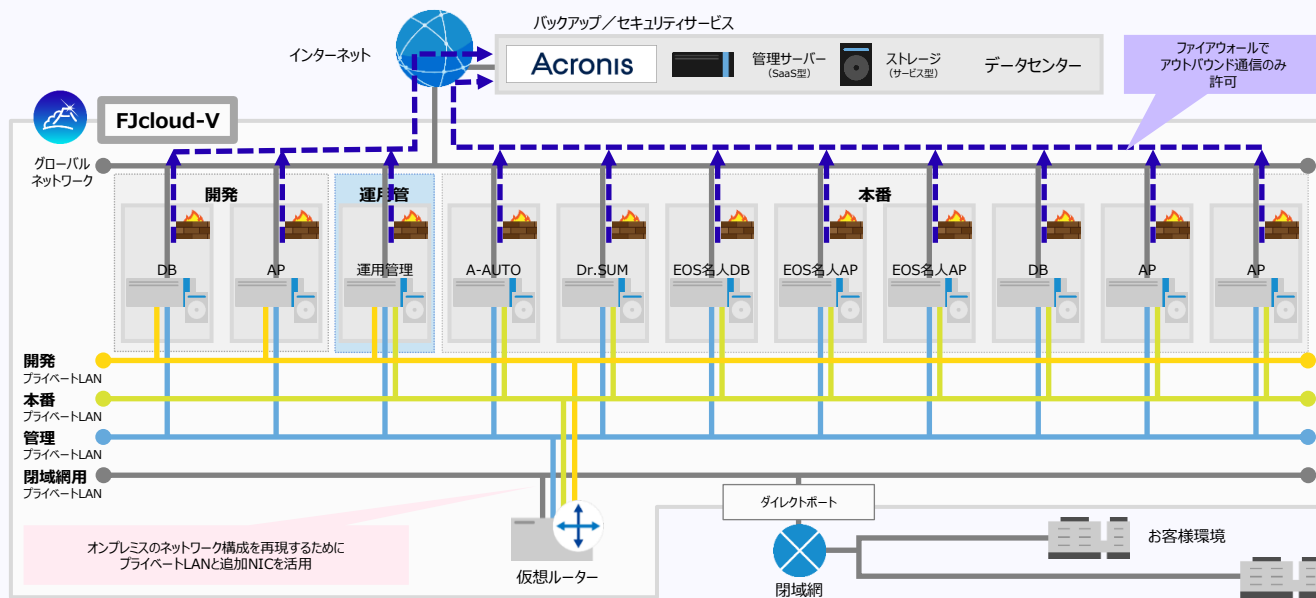
受注ポイント

- ・ 他社パブリッククラウドと異なり冗長化方式の学習や複数ゾーンなどの動作検証不要でサーバー1台からSLA適用が可能なこと
- ・ 自動フェイルオーバー（HA機能）の標準実装により、サーバー1台で可用性要件が満たせたこと
- ・ ベンチマークの結果、ストレージ性能が高かったこと
- ・ 複数NICとプライベートLANの活用によりオンプレミスのネットワーク構成をそのまま再現できること

将来性/今後の展開：グループ企業でも基幹システムのクラウド化を横展開

クラウドが初めてのSEでも、短納期での基幹システムのクラウド化に成功

構成イメージ



概要

基幹システムをFJcloud-Vに構築

ネットワーク

複数NICとプライベートLANの活用により既存オンプレミス環境のネットワーク構成をそのまま再現

DR対策

インターネット回線経由でバックアップデータを置くことが許可されたためAcronisを採用し、DR環境の保守工数を削減

Acronisとの通信はグローバル経由で、FJcloud-Vのファイアウォール機能利用でサーバーからAcronisへのアウトバウンド通信のみを許可

製造業 FJcloud-Vの利用機能 自動フェイルオーバー（HA機能）

概要説明

オンプレミス残留していたDBサーバーも含め、コンシューマー向けサービス基盤をクラウド化

お客様の課題

- サービスを24時間365日止められない
- 単一障害点となる特殊なDBサーバーをクラウド化できていない
- DBサーバーのコストが最適化できていない

FJcloud-Vでの解決

- HA機能でハードウェアの可用性が向上
- DBサーバーへの自動リカバリー製品導入で障害時の対応時間を短縮
- 柔軟なスケールアップ/ダウンでコストを最適化

案件概要

システム概要：コンシューマー向けサービス基盤

案件規模：約300万円/月 ※FJcloud-V
利用金額

競合：なし

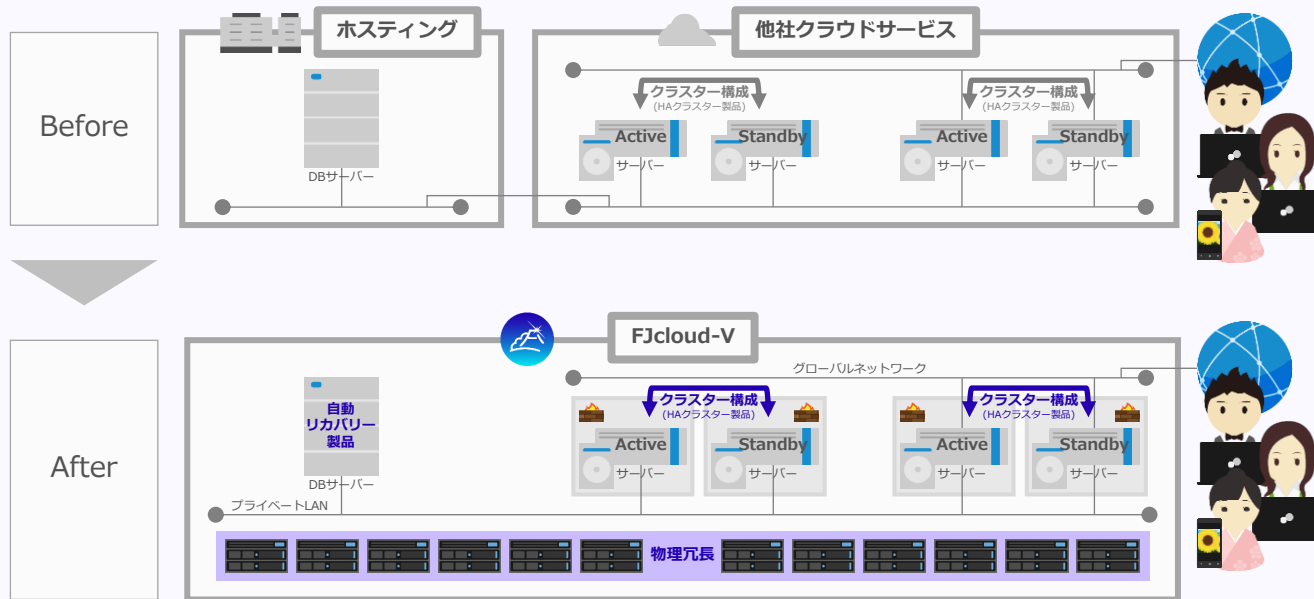
受注ポイント：

- ・ HA機能でハードウェアの可用性を向上できたこと
- ・ FJcloud-Vの導入実績が評価されたこと



クラウドへの全面移行と可用性向上で、運用コスト約20%削減

構成イメージ



概要

- ホスティングにあったDBサーバーおよび他社クラウドサービス上のサーバーをFJcloud-Vに移行

DBサーバーをクラウド化

- ホスティングにあったDBサーバーをFJcloud-Vに移行と同時に自動リカバリー製品を導入

他社クラウドからFJcloud-Vへ移行

- VMware vSphere基盤の他社クラウドサービス上のサーバー（HAクラスター製品利用）をFJcloud-Vに移行

情報・通信業

FJcloud-Outstationの利用機能

FJcloud-Outstation

概要説明

自社ブランドで展開中のクラウドサービスの基盤をFJcloud-Outstationに移行

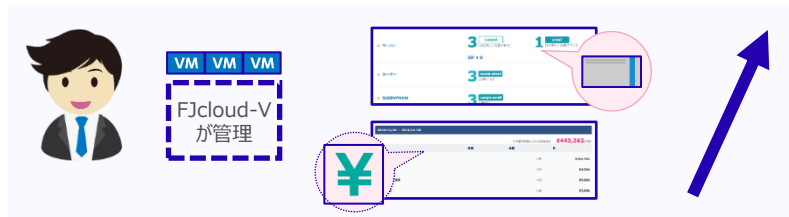
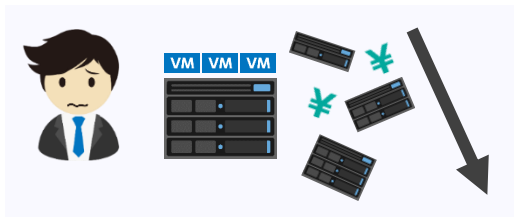
お客様の課題

- 運用保守が負担
- エンドユーザーの利用状況把握が困難
リソースや利用料金の管理
- 商品力の低下によりDC収容率が悪化

FJcloud-Outstationでの解決

FJcloud-Outstationを自社ブランドでOEM販売

- 運用保守から解放
- 専用コントロールパネルで利用状況を簡単に把握
- 商品力強化、構内接続でハイブリッドクラウド提案も可能に



案件概要

システム概要：クラウドサービス基盤

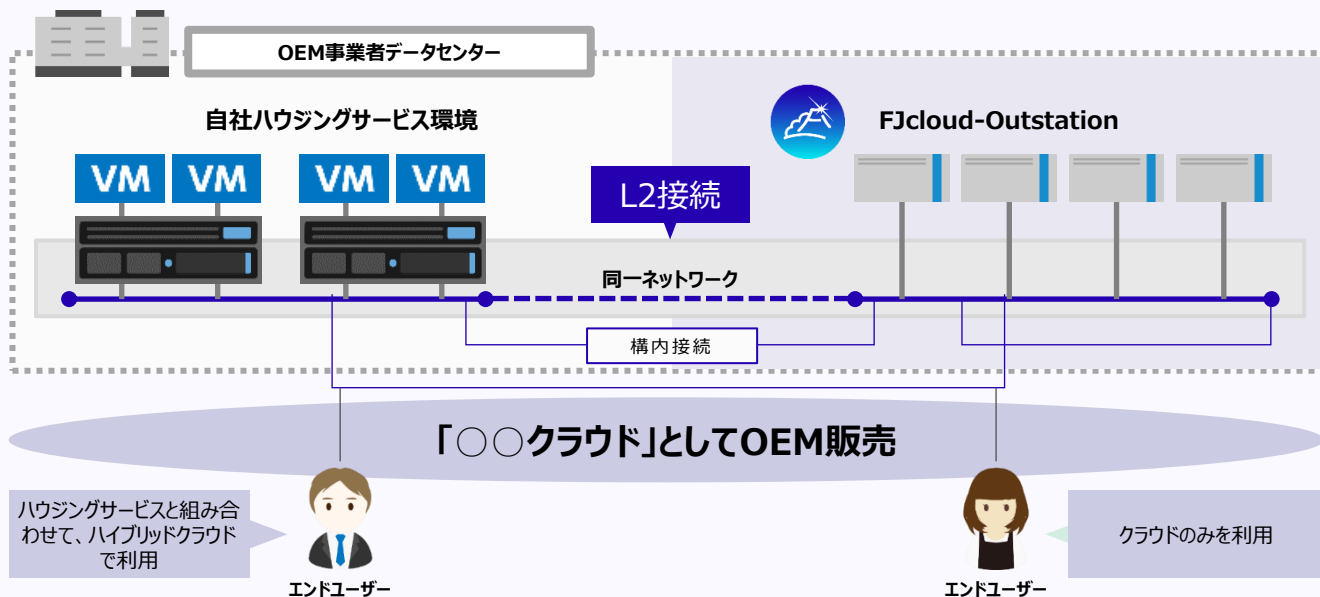
規模：約700万円/月 ※FJcloud-Outstation利用金額

訴求ポイント：

- ・ FJcloud-OutstationをOEMでエンドユーザーに販売可能なこと
- ・ 自社ハウジングサービスとFJcloud-Outstation間で構内接続が可能なこと
- ・ 専用のコントロールパネルが提供されたこと
- ・ 24/365のサポート窓口が利用可能なこと

クラウドサービスの競争力強化をFJcloud-Outstation移行で実現

構成イメージ



50名規模のテレワーク環境をスピーディーに構築

公益法人 FJcloud-Vの利用機能

リモートアクセスVPNゲートウェイ

概要説明

SSL-VPNを活用し、自宅からセキュアに既存FJcloud-V環境・オンプレミスに接続

お客様の課題

- 従業員の在宅勤務環境を早急かつ低コストで構築したい
- ITリテラシーが高くない

FJcloud-Vでの解決

提案から3週間で在宅勤務環境を構築し、利用開始

- 9,800円/月（税抜）の追加コストで導入
- コントロールパネルを設定し、PCに専用アプリケーションをインストールすれば利用可能

案件概要

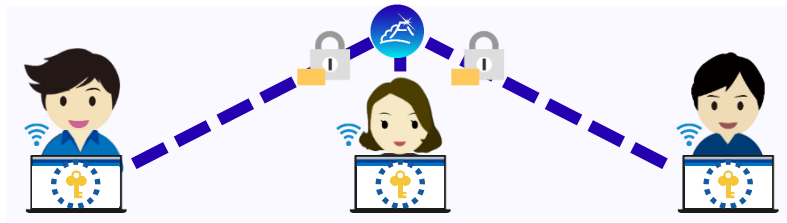
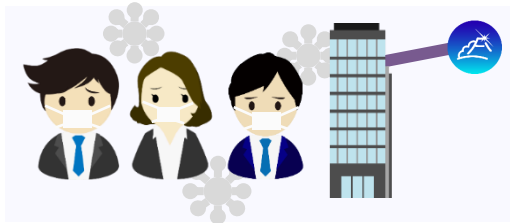
システム概要：業務システム・社内システム基盤

案件規模：約25万円/月 ※FJcloud-V利用金額

注目ポイント：

- SSL-VPNを短期間で構築できたこと
- 低コストなSSL-VPNサービスがあること
- 既存FJcloud-V環境を活用できたこと

将来性/今後の展開：特になし

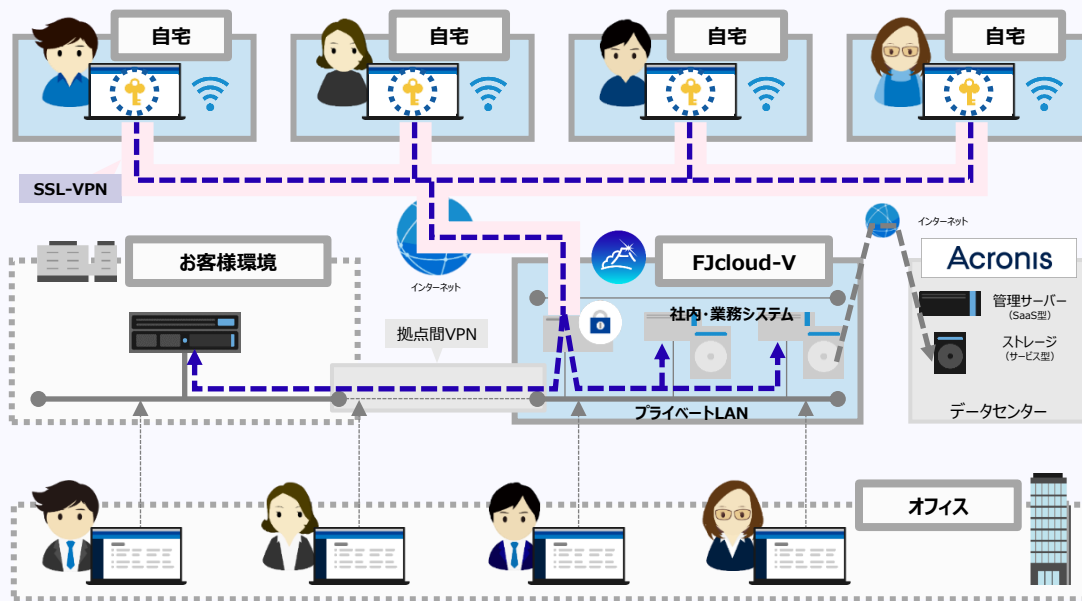


在宅勤務環境をFJcloud-Vで早く・安く・セキュアに実現

50名規模のテレワーク環境をスピーディーに構築

構成イメージ

在宅勤務時



システム

- ・ FJcloud-V：業務システム、ファイルサーバー、ADサーバーなど
- ・ オンプレミス：上記の一部
- ・ 両者を拠点間VPNゲートウェイ（インターネットVPN）で接続

在宅勤務時

- ・ 従業員の自宅から、専用クライアントソフトウェアをインストールしたPCでFJcloud-VのプライベートLANにアクセスし、業務を実施
- ・ SSL-VPNでセキュアに通信

オフィス出社時

- ・ 社内からFJcloud-VのプライベートLANにアクセスし、業務を実施

情報通信業

FJcloud-Vの利用機能

プライベートブリッジ

概要説明

マルチテナントのSaaS基盤をFJcloud-Vへ移行するとともにDRを実現

お客様の課題

- 物理基盤のリプレイスが迫っている
- DRを実施したい
- サービス開始当初の想定スペックに対して不足が発生

FJcloud-Vでの解決

クラウド移行時に東西リージョンに環境を分割し、DRを実現

- クラウド化でリプレイスから解放、EOS対策も実施
- リージョン間のプライベートL2延伸をオンデマンドで実現
- 後から変更できるため構築前の精緻なスペック見積もり回避



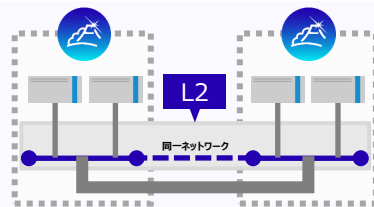
プライベート通信だが
コストと構築時間が必要な
閉域網？



グローバルに出る
インターネット
VPN？



コントロールパネルの設定で
プライベート
L2延伸



案件概要

システム概要：SaaS基盤

案件規模：約100万円/月 ※FJcloud-V利用金額

受注ポイント：

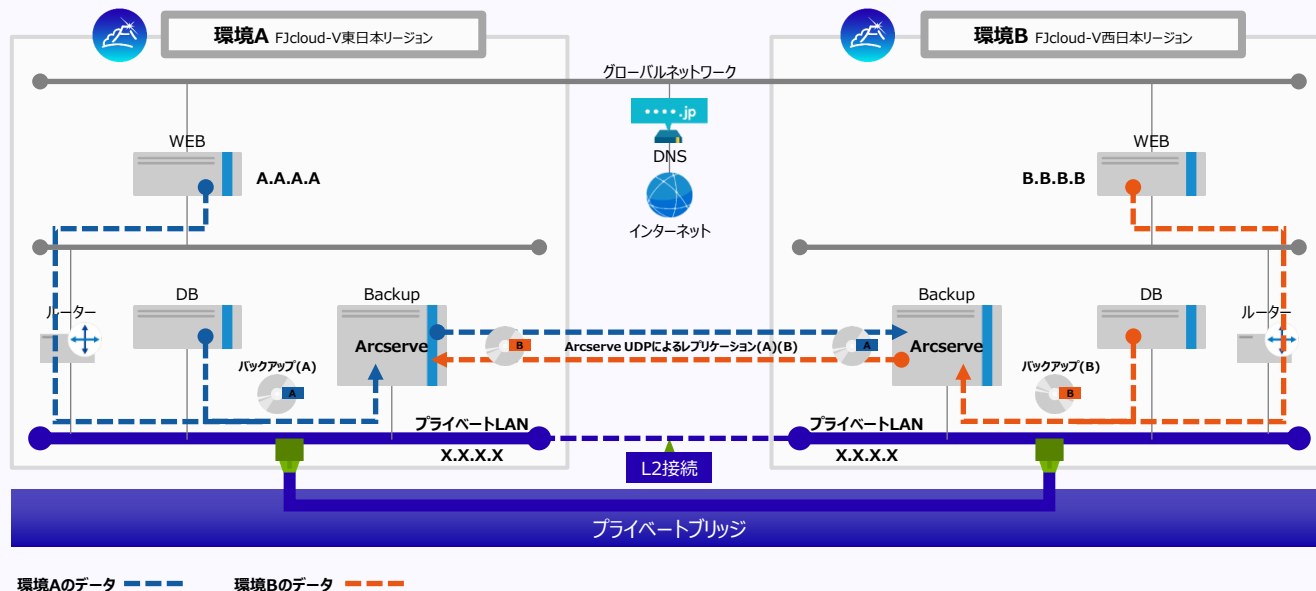
- ・ 既存案件でのFJcloud-V採用実績が多く、ナレッジがあり安心なこと

将来性/今後の展開：特になし

プライベートL2延伸により、リージョン間で容易にレプリケーション

SaaS基盤のクラウド化およびDRの実現

構成イメージ



概要

- 本番環境：FJcloud-V東日本リージョンおよびFJcloud-V西日本リージョン

- バックアップソフト：Arcserve

ネットワーク

- 東西リージョンのプライベートLANをプライベートブリッジで接続することで、リージョン間をL2延伸

平常時の処理

- ユーザーの半数を東日本リージョン、残り半数を西日本リージョンに割り振り
- バックアップソフト（Arcserve）を利用して、東日本（西日本）リージョンでそれぞれサーバーのバックアップを取得し、自リージョン内のバックアップサーバーに格納
- 東西リージョンのバックアップサーバー間をレプリケーションして同期

非常時の処理

- サーバーやゾーンレベルの障害の場合：同一リージョン内に新規サーバーを構築し、バックアップからデータを復旧
- リージョンレベルの災害などの場合：正常稼働中のリージョンに新規サーバーを構築、バックアップからデータを復旧させ、有事が発生したリージョンのユーザーのアクセス先を正常リージョンにDNSで手動切り替え

FJcloud-Vをもっと知るために

お問い合わせが多い構成をご紹介します

お客様からのお問い合わせが多い構成について、FJcloud-V上での構成方法をデザインパターン形式でご紹介しています
こんな方に最適です

- クラウドで何ができるのか知りたい初心者
- システム構成を検討中のクラウドアーキテクト
- クラウドデザインパターンを学びたいインフラエンジニア

WEBページをご用意

- WEBページ
 - 代表的なデザインパターンをすぐにご覧いただけます
<https://pfs.nifcloud.com/cdp/>

eBook

『VMware vSphere®ユーザーのためのクラウド移行のポイント』『「クラウド・バイ・デフォルト原則」でどう変わる?』『「ハイブリッドクラウド」の作り方』『ニフクラユーザーのための可用性向上のポイント』などのドキュメントをご用意しています

<https://pfs.nifcloud.com/dl/>

クラウドナビ

クラウドを支える技術や関連用語をわかりやすく解説した記事コンテンツです

<https://pfs.nifcloud.com/navi/>

ニフクラブログ

ニフクラやクラウドの技術についてエンジニアが語るブログです

<https://blog.pfs.nifcloud.com/>

FJcloud-V サービス詳細

※本資料でご紹介するサービスモデルはパブリックリソースです。

- FJcloud-Vでは、以下の機能・サービスをご利用いただけます。

分類	機能・サービス
サーバー(共有)タイプ・適用OS	Type-c2, Type-c2r ハイコストパフォーマンスモデル
	Type-e2, Type-e2r ベーシックモデル
	Type-h2, Type-h2r ハイスペックモデル
	適用OS (CentOS、Rocky Linux、AlmaLinux、RHEL、Ubuntu、Windows Server、SQL Server)
基本サービス	リージョン/ゾーン ※提供リージョン:ゾーン east-1: east-11, east-12, east-13, east-14 east-2: east-21 east-3: east-31 jp-east-4: jp-east-41 west-1: west-11, west-12, west-13 jp-west-2: jp-west-21 us-east-1: us-east-11
	コントロールパネル
	二フクラAPI
	コンソール
	マルチアカウント
	IP許可制限
	料金明細サービス ※請求金額については、サービスポータルの料金確認画面をご確認ください
	ワンデイスナップショット
	サーバー起動時スクリプト
	自動フェイルオーバー(HA機能)

※長期利用割引プランが適用可能です。

FJcloud-Vの提供機能・サービス (2/4)

分類	機能・サービス
サーバー・ディスク機能	サーバーコピー
	サーバーセバレート
	バックアップ
	VMインポート
	カスタマイズイメージ・イメージ配布
	オートスケール
	増設ディスク（標準フラッシュドライブ、高速フラッシュドライブ）
	ISOイメージ
	Liveマイグレーション
ネットワーク機能	ファイアウォール
	WAF (Scutum)
	WAF (攻撃遮断くん)
	ロードバランサー
	ルーター
	プライベートLAN
	IPアドレス
	マルチIPアドレス
	追加NIC
	統合ネットワークサービス (IPCOM VE2シリーズ)
	ダイレクトポート (専用線・閉域網 接続サービス)
	プライベートアクセス (閉域網 集線型接続サービス)
	・プライベートアクセス for ARTERIA
	・プライベートアクセス for クラウドゲートウェイ クロスコネク
	・プライベートアクセス for SINET
	・プライベートアクセス for Equinix Fabric™
	・プライベートアクセス for Digital enhanced EXchange(DEX)
	・プライベートアクセス for OPTAGE
	拠点間VPNゲートウェイ
	リモートアクセスVPNゲートウェイ
	インターネットVPN (H/W)

※長期利用割引プランが適用可能です。

FJcloud-Vの提供機能・サービス (3/4)

分類	機能・サービス
ネットワーク機能	ハウジング接続 ・ハウジング接続サービス ・L2ハウジング接続サービス
	プライベートブリッジ
セキュリティ	サーバー証明書
	CA証明書
	IDS
	サーバー向けクラウド型セキュリティ (Trend Micro Cloud One – Workload Security)
	ウイルス・スパイウェア対策(ESET Server Security)
	Web改ざん検知(GREDセキュリティサービス)
監視・サポートサービス	脆弱性診断サービス Powered by GMOイエエ
	基本監視
	パフォーマンスチャート
	エンタープライズサポート
	プレミアムサポート
	Windows Server向けサポートデスク
	有人監視
	障害・お知らせ通知
	サービスアクティビティ
	Red Hat Enterprise Linux アドバンスドサポート
	Red Hat Enterprise Linux 7 ELS (延長ライフサイクルサポート)
	Red Hat Enterprise Linux AUS (Advanced Mission Critical Update Support)
ストレージ・NASサービス	オブジェクトストレージサービス
	NAS

FJcloud-Vの提供機能・サービス（4/4）

分類	機能・サービス
ライセンス製品の利用	ライセンス管理
	SAP製品の利用
	GitLab Enterprise Edition ライセンスの利用
その他の機能	バックアップ/セキュリティサービス (Acronis Cyber Protect Cloud)
	CDN(Fastly)
	FUJITSU クラウドサービスHPC ※ご利用には別途お申込みが必要です。 データ消去操作完了証明書
エンジニアリングパーツ	RDB <ul style="list-style-type: none"> ・ディスク ・バックアップ(自動バックアップ) ・DBスナップショット
	DNS/GSLB(広域負荷分散)/ドメイン取得・管理 <ul style="list-style-type: none"> ・DNS ・GSLB(広域負荷分散) ・ドメイン取得
	ESS(メール配信) <ul style="list-style-type: none"> ※月間配信数は250万通までご利用いただけます
	タイマー
	スクリプト
専有機能	FJcloud-Outstation <ul style="list-style-type: none"> ※詳細はFJcloud-Outstation XSmall ご紹介資料、FJcloud-Outstation Small/Medium/Large ご紹介資料を参照ください。 プライベートリソース <ul style="list-style-type: none"> ※詳細は FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-V「プライベートリソース」ご紹介資料 を参照ください。 専有コンポーネント

- 本サービスのお問い合わせ窓口および各種通知（トラブル通知、メンテナンス通知、本サービス内容の変更通知）は、以下をご参照ください。

- お問い合わせ

- <https://pfs.nifcloud.com/inquiry/>

- 利用料金が毎月変動する従量課金での契約・支払いではなく、予め、見積時に定めた利用量どおりであれば、指定の固定金額でご利用いただける「定額プラン」をご提供いたします。

- あらかじめ決めたリソースの見積金額に基づいた**月額固定金額**を契約金額とし、毎月請求します。
- 月額固定金額を下回った場合でも、月額固定金額での請求となります。

■条件

- ・対象のお客様：全業種のお客様
- ・対象サービス：FJcloud-O/V/ベアメタル
(一部サービスを除く)
- ・予め合意した月額固定金額で契約

・契約期間：以下 3 パターンより選択

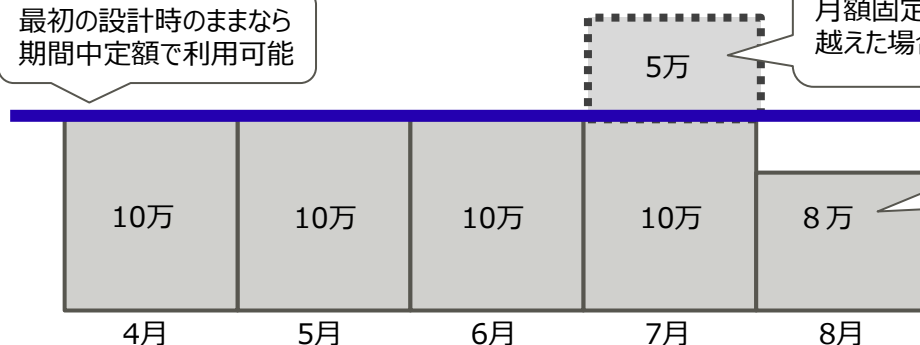
- ① 1年間
- ② 1年以上の複数年契約（終了日の定めがあるもの）
- ③ 1年以上かつ解約日まで継続（終了日の定めがないもの）

<定額プラン利用例>

月額固定金額例
10万円

利用するシステムの見積金額
を元に月額固定金額を設定

最初の設計時のままなら
期間中定額で利用可能



月額固定金額(=見積時に定めた利用量)を
越えた場合は、超過分(5万円)を加算

利用量が月額固定金額
を下回った場合でも定額
(10万円)を請求

- 予め見積時に定めた利用量どおりであれば指定の月額固定金額で請求されます。
- 「月」により日数に差異が生じます（28日、30日、31日）ので、最大利用時間（利用量）にてお見積いただいた金額を「定額」とし、月額固定金額を決定ください。利用量が超過した場合、定額に加え超過分が加算され請求されますので、お見積時には最大利用時間・量での試算をいただきますようお願いいたします。
- 契約期間が前頁の①または②の場合は、契約期間満了後は、再申込がない限り、翌月以降から従量料金にて請求されます。
③をご選択いただいた場合は、解約されるまで、月額固定金額で利用可能です。
- 下記のような一部サービスは定額プラン適用に留意が必要です。

【留意が必要な一部サービス】

以下サービスを利用する場合、指定の月額固定金額で利用いただけなくなります。サービス利用時にはご了解の上、定額プランをお申込みください。

FJcloud-O	コンテンツ配信サービス
FJcloud-V	OVM（Oracle Database 利用環境） バックアップ/セキュリティサービス（Acronis Cyber Protect Cloud） CDN（Fastly） CDN（J-Stream CDNNext）※2025年9月30日新規申込受付終了 ※最新情報は FJcloud-Vサービス仕様書 別表 2をご確認ください

■ 価格について

- FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-Vの価格につきましては、FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-V料金表（以下）をご確認ください。

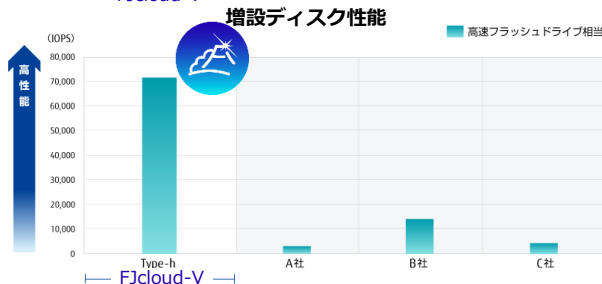
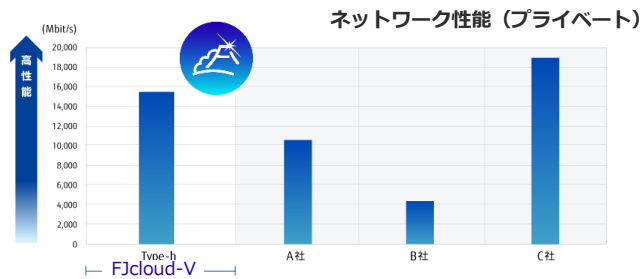
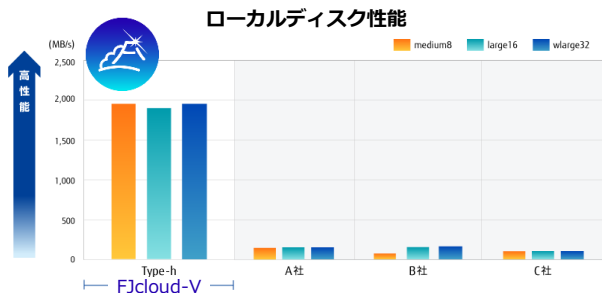
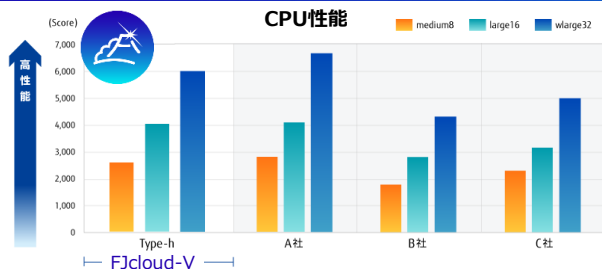
<https://doc.cloud.global.fujitsu.com/lib/common/jp/price-list/fjcloud/-v/>

■ 料金月について

- 本サービスの料金月は、日本標準時（JST）における当月1日0時から当月末日24時まで（協定世界時（UTC）における前月末日15時から当月末日15時まで）とします。

- 以下のウェブサイトに記載されている各機能の注意事項は本サービスの制限事項・注意事項に該当します。
 - <http://pfs.nifcloud.com/service/>
- 以下のウェブサイトに記載されている禁止事項は本サービスの制限事項・注意事項に該当します。
 - <http://pfs.nifcloud.com/service/rule.htm>
- 本サービスの利用は日本国内に限定するものとします。

ベンチマーク



- ※ CPU性能は、UnixBenchでCPU演算性能。ローカルディスク性能は、fioでディスクI/O性能（シーケンシャルWRITE・スループット）。増設ディスク性能は、vdbenchでディスクI/O性能を計測（ディスクサイズ100GB、Read : Write = 50:50、ランダムアクセス）。ネットワーク性能は、iperfでネットワークの帯域を測定しています。
- ※ インターネット接続は共用のベストエフォートです。
- ※ 2021年9月時点で各ベンチマーク測定ツールにて、FJcloud-Vおよび国内外クラウドサービスのベンチマークを当社にて取得した結果となります。他社クラウドサービスは、カタログ上のCPUコア数を基準にメモリが最も近いスペックのものと比較しています。
- ※ 当社にて性能を保障するものではありません。

Thank you

